

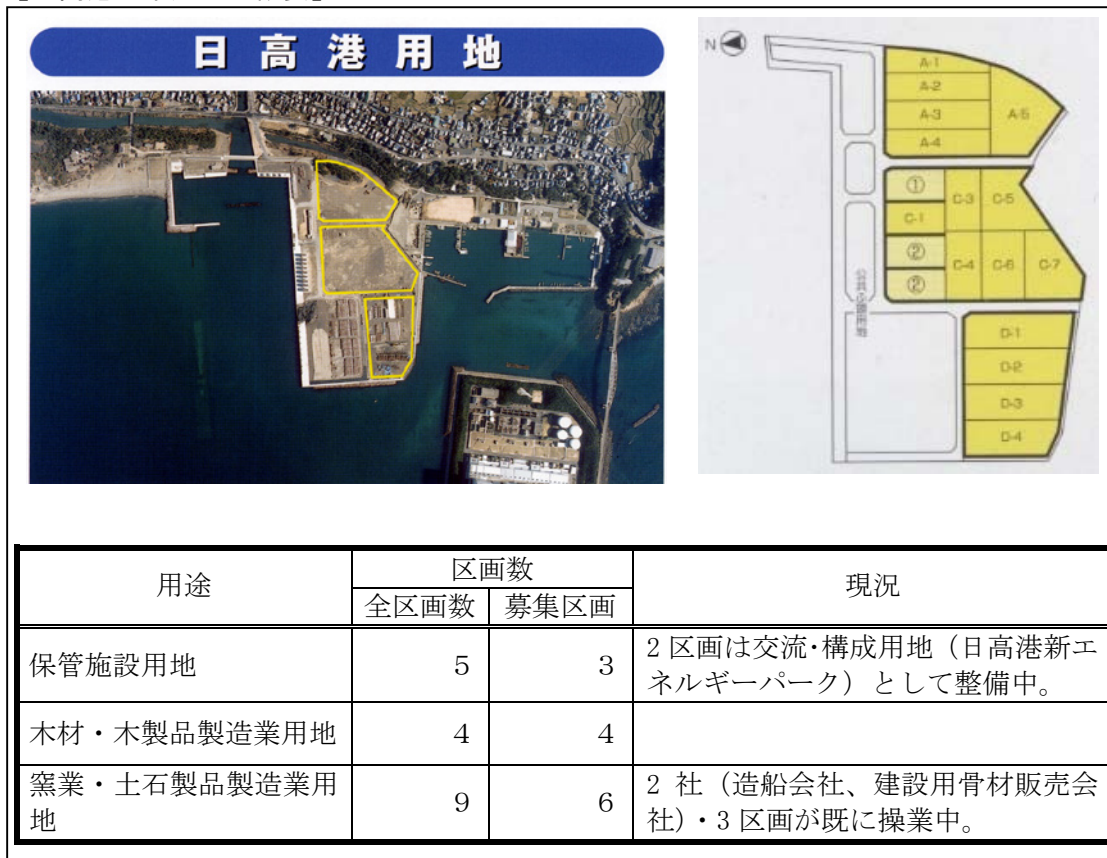
【施設の概要】

直轄事業	防波堤(西)	450m
	防波堤(A)	460m
	岸壁(-12m)	240m(1バース)
	※暫定-10m	
	護岸(防波)	172m
	泊地(-12m)	27.4ha
	ふ頭用地	0.6ha
補助事業	防波堤(B)	230m
	岸壁(-7.5m)	130m(1バース)
	※耐震強化岸壁	
	岸壁(-5.5m)	100m(1バース)
	物揚げ場(-4.5m)	160m
	道路	960m
	泊地(-4~7.5m)	7.3ha
県単独事業	ふ頭用地	5.9ha
土地造成事業		10.7ha

## 2. 日高港企業用地 分譲・賃貸事業

水深 12m（暫定 10m）の公共バースを擁し、関西国際空港まで車で約 60 分、湯浅御坊道路・御坊インターチェンジまで車で約 10 分という交通利便性を活かし、御坊市は、事業主体である和歌山県とともに企業誘致を行っている。

### 【日高港企業用地の概要】



資料：和歌山県企業立地ガイド

## 3. 日高港新エネルギーパーク（整備中）

### （1）概要

日高港新エネルギーパークは、日高港を内外に広く発信するとともに、新エネルギーの研究・普及促進を目的として、関西電力が事業主体となって整備が行われている。本施設には、太陽光などの実験施設と見学者や地域住民の憩いの場となる公園施設が整備される予定である。

### （2）施設概要

場 所：和歌山県御坊市塩屋町 日高港企業用地内

面 積：9,900 m<sup>2</sup>

着 工 : 平成 18 年 8 月

竣 工 : 平成 19 年 9 月 (予定)

実施主体 : 関西電力(株)

管理運営 : 御坊市、関西電力(株)

施設概要 : < 研究施設 >

- ・太陽光発電設備 (100 k W) : 太陽光発電の実証研究
- ・小型風力発電設備 (数 k W1 基、数百 W2 基) : 小型風力発電の実証研究
- ・バイオマス発電設備 : バイオマス発電の実証研究

< P R 施設 >

- ・ソーラーハウス : 新エネルギーの仕組みや研究状況を展示などでわかり易く説明する

< 公園施設 >

- ・新エネルギー設備 : ソーラーカー、マイクロ水力発電、小型ハイブリッド (太陽光・風力)、くじら型風力発電 (港湾緑地内に設置予定)、芝生広場

### 【日高港新エネルギーパーク完成予想図】



資料 : 日高港新エネルギーパークパンフレット



【日高港塩屋地区の現況】



施設案内図



新エネルギーパーク (平成 19 年竣工予定)



企業用地への進出事業者 (砕石等)



幹線道路 (左奥が企業用地)



ふ頭用地 (塩屋地区の木材業者が使用、奥が発電所)



ふ頭用地に置かれた木材チップ

### 1. 御坊市の概要

#### (1) 位置

御坊市は、和歌山県の海岸線のほぼ中央に位置し、東西に約 8.4Km、南北に約 16.3Km、総面積は 43.93k m<sup>2</sup>。南北に細長い帯状の地形で、市の中央部の日高平野には日高川が流れ、海・山・川の自然に恵まれた紀中地域の中核都市である。

土地利用状況は、耕地が 21%、森林が 37%、河川・水路・水面が 7%、道路が 5%、宅地が 12%である（平成 17 年 10 月 1 日現在）。

#### (2) 歴史

##### ① 先史時代

海岸部の段丘地（壁川（かべご）・尾ノ崎遺跡等）からは 2 万年前に使われた旧石器時代のナイフ形石器が出土し、太古の昔から人が生活していたことがわかる。

##### ② 古代～中世

約 1300 年前の万葉の時代、文武天皇夫人で聖武天皇の生母である宮子姫の生誕地と伝えられている。また、熊野参詣の途上にあたり、熊野九十九王子跡も市内に 6 箇所あり、華やかな都人の往来を偲ばせる。

中世には室町幕府の奉公衆であった湯川一族が日高別院の前身となる吉原御坊を建立。天正 13（1585）年、豊臣秀吉（当時は、羽柴秀吉）の紀州攻めで湯川氏は滅亡したが、その後真宗門徒によって寺は復興し、日高御坊（「御坊さま」「御坊所」と呼ばれて親しまれ、活気ある寺内町として発展した。

また、奥日高より日高川で運搬される木材の集散地として発展してきた。

##### ③ 近代

明治 30 年に町制が施行（御坊町）された。地場産業である木材産業に加え、野菜栽培などの一次産業が盛んであるが、特に最近では花卉（スイートピー、カスミソウ、スターチス）栽培が盛んで全国有数の出荷高を誇っている。

昭和 29 年、御坊市として市制施行。昭和 58 年には日高港が重要港湾に指定され、国際貿易港としての発展も期待されている。

#### (3) 気候

黒潮海流による温暖な気候で、冬でも暖かく海岸部では霜がほとんど降らない。年間平均気温は 16.1℃と温暖で、年平均の降水量も比較的多く、日照時間も長い。

## 2. 人口

### (1) 人口推移

御坊市の人口は約 27,000 人。御坊市を中心とする御坊都市圏（御坊市、美浜町、日高町、由良町、川辺町、中津村、美山村、印南町を含む 1 市 5 町 2 村＝全て旧市町村表記）は約 7.3 万人、田辺市を含む田辺都市圏（田辺市、龍神村、南部川村、南部町、白浜町、中辺路町、大塔村、上富田町、日置川町、すさみ町＝1 市 6 町 3 村＝全て旧市町村表記）は 14.2 万人、これらを合わせた御坊市（日高港）背後圏では 21.5 万人となる。

人口の推移を見ると、御坊市は平成 12 年ごろまでは横ばい傾向にあったが、直近の 5 年間（平成 12→17 年）は微減（▲3.9%）である。しかし、和歌山県平均（▲2.2%）を上回る人口減少となっている。

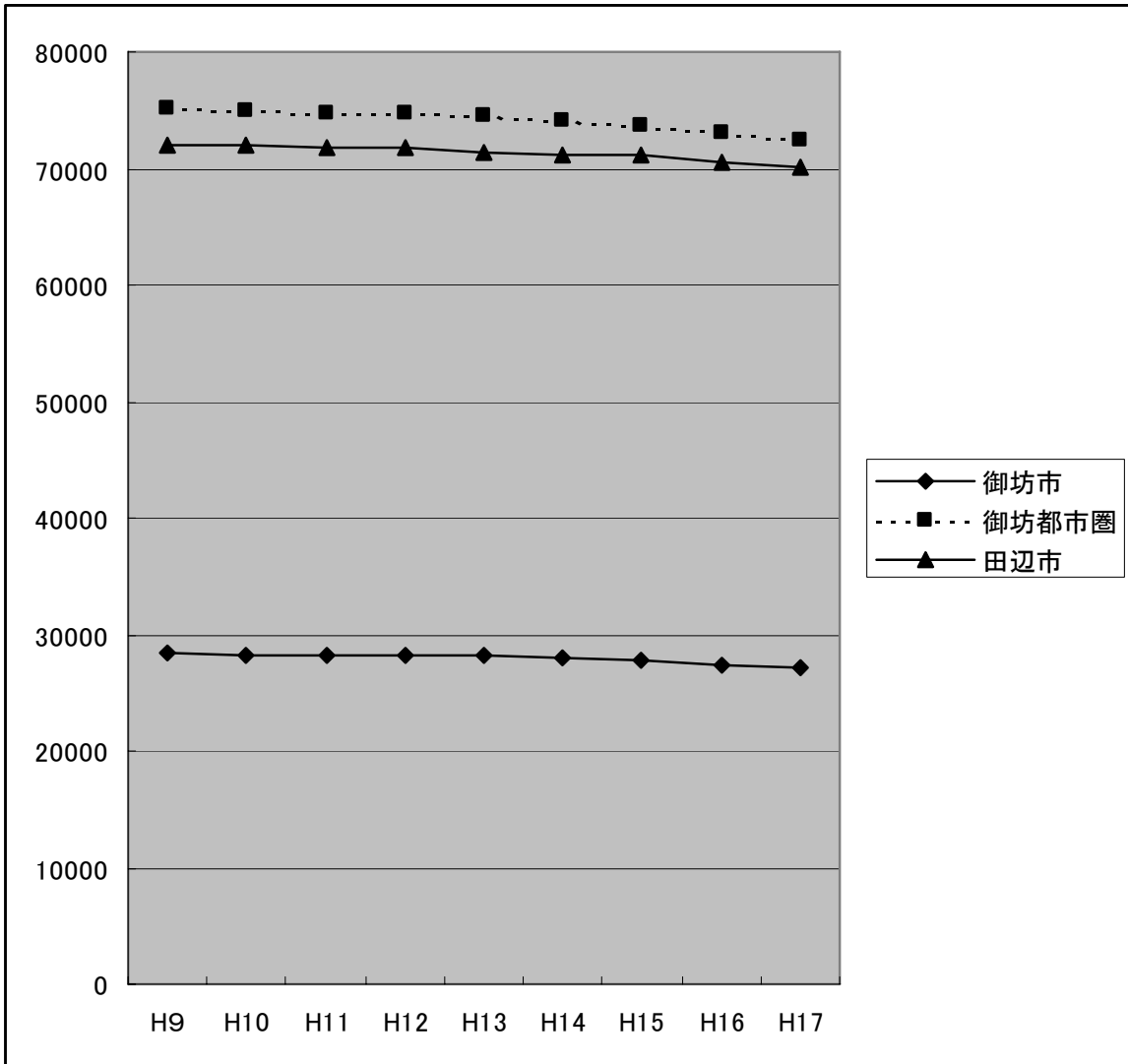
また、御坊都市圏（▲2.9%）と田辺都市圏（▲1.9%）を合わせた背後圏の合計では、ほぼ県並みの▲2.3%となっている。御坊都市圏は、田辺都市圏に比べて人口減少傾向がやや高いと言える。

#### 【背後圏の人口推移】

	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H12→17 増減率(%)
和歌山県	1,098,200	1,095,626	1,094,120	1,091,260	1,087,614	1,083,391	1,079,055	1,073,434	1,067,114	-2.2%
御坊都市圏	75,180	74,898	74,698	74,634	74,593	74,117	73,662	72,998	72,467	-2.9%
御坊市	28,319	28,266	28,284	28,303	28,178	28,100	27,838	27,458	27,211	-3.9%
美浜町	8,907	8,898	8,874	8,828	8,874	8,813	8,762	8,617	8,562	-3.0%
日高町	7,274	7,349	7,400	7,462	7,543	7,488	7,506	7,596	7,660	2.7%
由良町	8,303	8,154	8,041	7,982	7,927	7,807	7,766	7,654	7,566	-5.2%
川辺町	7,017	7,008	7,005	7,023	7,013	7,032	7,023	6,997	7,007	-0.2%
中津村	2,640	2,621	2,590	2,561	2,537	2,529	2,506	2,488	2,463	-3.8%
美山村	2,358	2,335	2,317	2,315	2,305	2,263	2,238	2,219	2,185	-5.6%
印南町	10,362	10,267	10,187	10,160	10,216	10,085	10,023	9,969	9,813	-3.4%
田辺都市圏	145,366	145,196	145,013	144,887	144,572	144,176	143,778	143,030	142,070	-1.9%
田辺市	71,916	71,923	71,749	71,692	71,465	71,258	71,095	70,600	70,180	-2.1%
龍神村	4,781	4,730	4,719	4,672	4,637	4,618	4,585	4,532	4,488	-3.9%
南部川村	6,900	6,886	6,853	6,820	6,790	6,762	6,720	6,715		
南部町	8,363	8,304	8,265	8,229	8,233	8,245	8,239	8,259	14,852	-1.3%
白浜町	20,024	20,069	20,089	20,008	20,035	19,952	19,933	19,909	19,837	-0.9%
中辺路町	4,059	4,050	3,992	4,010	3,967	3,921	3,883	3,814	3,760	-6.2%
大塔村	3,366	3,330	3,320	3,304	3,345	3,330	3,350	3,385	3,357	1.6%
上富田町	14,308	14,461	14,774	14,990	15,068	15,187	15,263	15,301	15,319	2.2%
日置川町	5,388	5,290	5,212	5,185	5,114	5,034	4,976	4,866	4,736	-8.7%
すさみ町	6,261	6,153	6,040	5,977	5,918	5,869	5,734	5,649	5,541	-7.3%
背後圏計	220,546	220,094	219,711	219,521	219,165	218,293	217,440	216,028	214,537	-2.3%

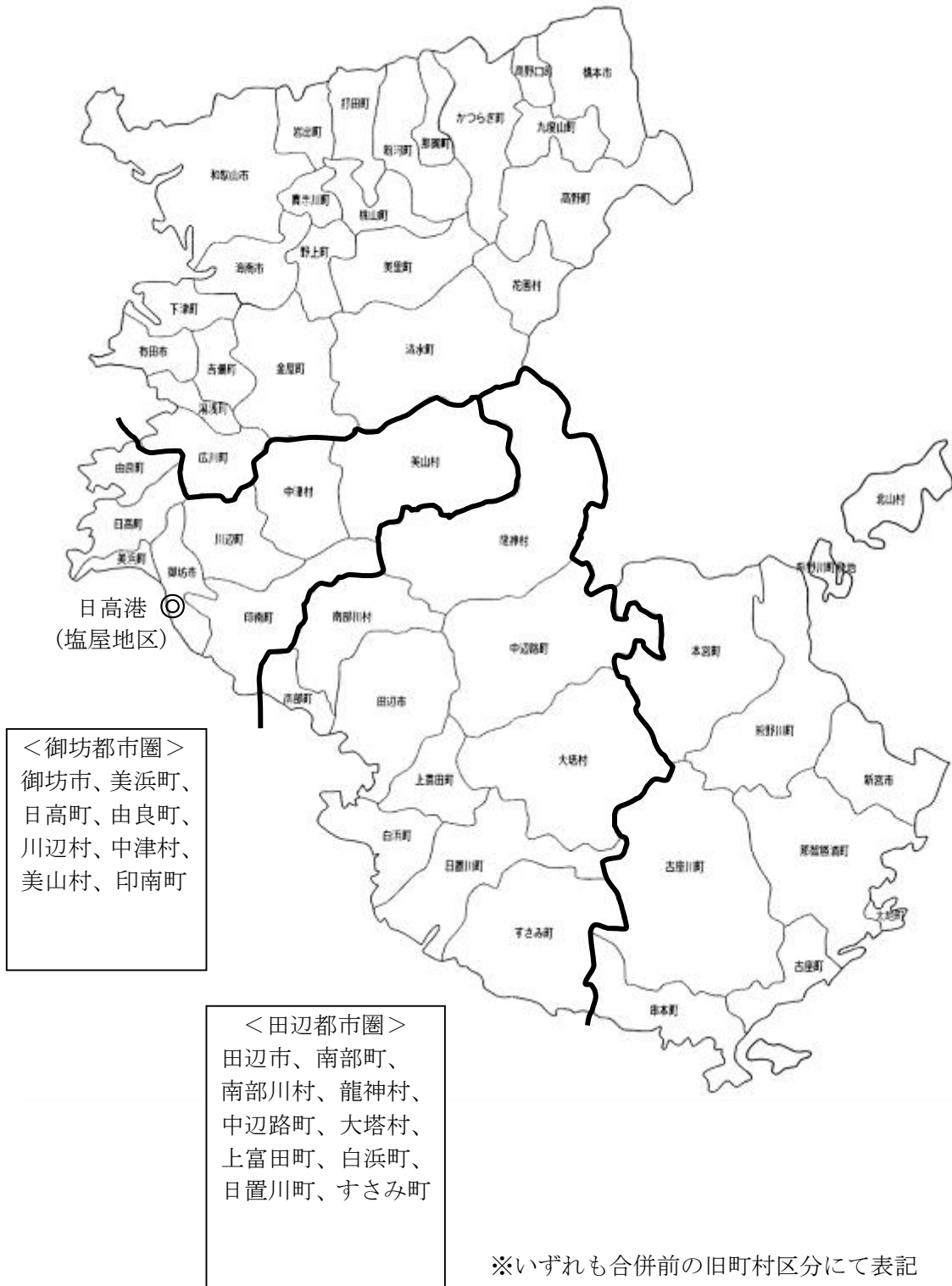
資料：住民基本台帳人口

【御坊市、御坊都市圏、田辺市の人口推移】



資料：住民基本台帳人口

【背後圏(御坊都市圏+田辺都市圏)の概要】



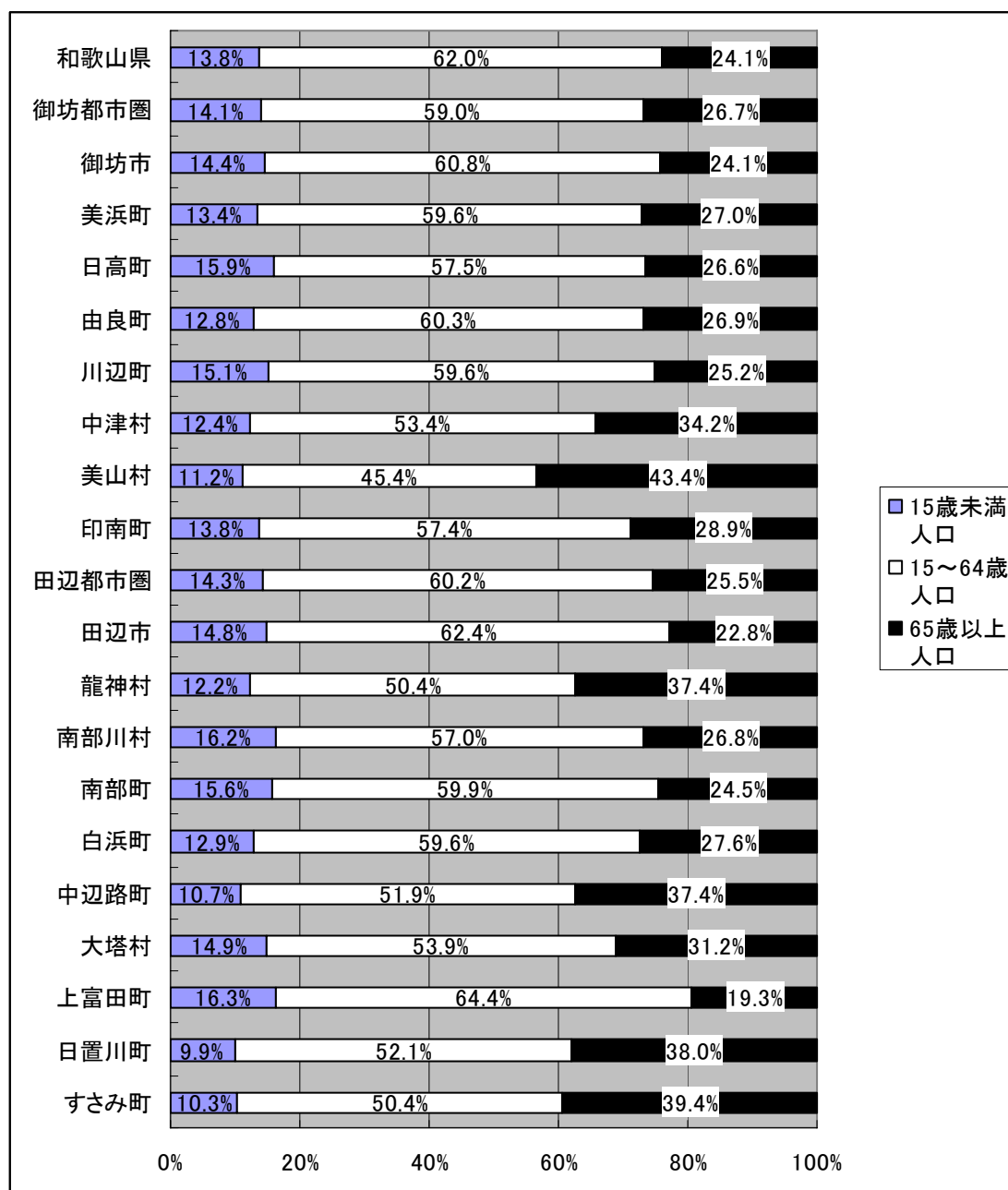


## (2) 年齢別人口

御坊市の年齢別人口を見ると、65歳以上の高齢者比率は24.1%で和歌山県平均とほぼ同じである。背後圏では、旧中津村、旧美山村、旧龍神村、旧中辺路町、旧大塔村などの山間部と、すさみ町、旧日置川町などの背後圏南部地区で高齢化率が30%を越えており、高齢化傾向が著しい。

これらの市町村では、年少人口の比較ではそれほど大きな差は見られないものの、高齢人口の比率が大きいため労働人口（15～64歳人口）の比率が少なくなっている。

【年齢別人口構成】



資料：平成17年国勢調査（旧市町村区分）

### 3. 産業

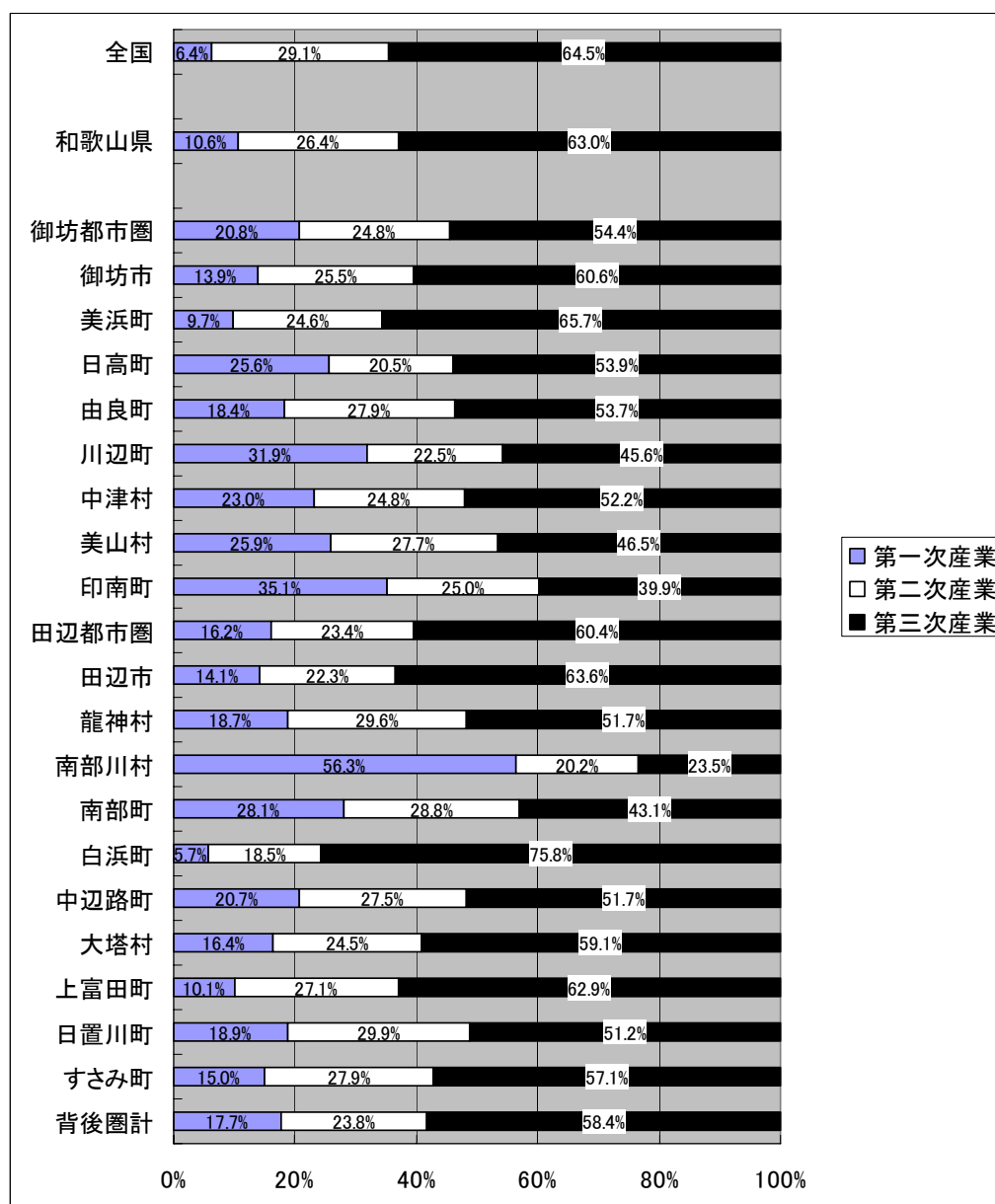
#### (1) 御坊市、背後圏の産業構造

##### ① 産業別就業者数

御坊市の産業別就業者比率を見ると、一次産業 13.9%、二次産業 25.5%、三次産業 60.6%となっており、一次産業比率は比較的高い。和歌山県は、全国（6.4%）に比べて第1次産業就業者の比率が高いが、御坊市はさらに県の平均を上回っている。

背後圏全体では、さらに第1次産業の比率が高く、17.7%となる。背後圏内各市町村の傾向を見ると、白浜温泉がある旧白浜町は第三次産業に、「南高梅」ブランドで有名な梅干と備長炭が特産の旧南部川村は第一次産業にそれぞれ特化している。

【御坊市及び背後圏の産業別就業者数】



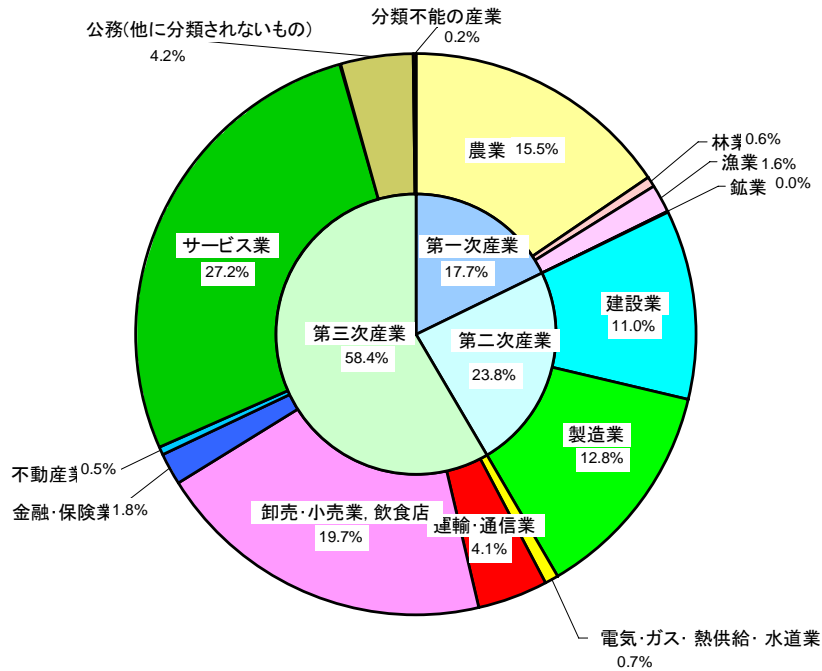
資料：平成12年国勢調査

背後圏における産業別就業者数を産業分類ごとにみると、以下の特徴があることがわかる。

- ・第1次産業では農業が最も盛んで、第1次産業就業者の88%を占めている。
- ・林業従事者は639人おり、特に田辺都市圏（田辺市、龍神村、大塔町）に多い。
- ・第2次産業では、製造業と建設業の就業者が共に多く、拮抗している。
- ・第3次産業は拠点性のある御坊市、田辺市と、比較的人口規模の大きい上富田町、観光業が盛んな白浜町に集中しており、特に「卸売り・小売業・飲食業」と「サービス業」において顕著である。

御坊市の産業別内訳を見ると、特産品である花卉（スイートピー、スターチス、カスミソウ等）や野菜栽培を中心に、農業の就業者が多いことが特徴である。

【産業別大分類別就業者数の内訳】



(単位:人)

	総数	第一次産業				第二次産業				第三次産業								分類不能の産業	小計
		農業	林業	漁業	小計	鉱業	建設業	製造業	小計	電気・ガス・熱供給	運輸・通信業	卸売・小売業、飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業	公務(他に分類されない)			
御坊都市圏	34,278	6,253	142	728	7,123	15	3,811	4,668	8,494	384	1,333	6,065	684	65	8,408	1,690	32	18,661	
御坊市	12,613	1,588	7	157	1,752	2	1,502	1,712	3,216	205	488	2,876	301	34	3,117	598	26	7,645	
美浜町	3,820	250	5	117	372	5	422	512	939	35	194	687	114	11	1,217	249	2	2,509	
日高町	3,527	706	2	194	902	-	326	397	723	30	152	521	85	8	897	209	-	1,902	
川良町	3,482	437	-	203	640	7	333	632	972	51	142	641	53	1	855	125	2	1,870	
川辺町	3,551	1,092	34	6	1,132	-	374	424	798	34	107	384	59	7	844	185	1	1,621	
中津村	1,177	230	41	-	271	-	191	101	292	16	35	131	13	1	331	87	-	614	
美山村	990	215	38	3	256	-	128	146	274	3	51	101	3	-	232	70	-	460	
印南町	5,118	1,735	15	48	1,798	1	535	744	1,280	10	164	724	56	3	915	167	1	2,040	
田辺都市圏	69,056	9,778	497	918	11,193	29	7,509	8,597	16,135	385	2,917	14,317	1,167	425	19,694	2,640	183	41,728	
田辺市	34,582	4,404	112	350	4,866	4	3,651	4,068	7,723	265	1,593	8,687	803	240	8,958	1,276	171	21,993	
龍神村	2,092	312	73	6	391	5	366	248	619	11	67	266	17	-	605	116	-	1,082	
南部川村	3,808	2,102	41	-	2,143	-	279	490	769	7	91	237	14	2	452	93	-	896	
南部町	4,278	997	15	190	1,202	-	376	856	1,232	6	132	656	42	10	872	125	1	1,844	
白浜町	9,770	420	12	126	558	-	868	940	1,808	36	340	2,130	123	122	4,355	295	3	7,404	
中辺路町	1,660	292	46	6	344	4	204	249	457	7	79	202	6	4	462	97	2	859	
大塔町	1,412	154	78	-	232	-	164	182	346	3	62	191	9	2	462	105	-	834	
上富田町	6,949	646	29	26	701	-	906	974	1,880	39	374	1,255	111	36	2,264	283	6	4,368	
日置川町	2,104	299	33	65	397	8	319	303	630	8	68	310	15	4	545	127	-	1,077	
すさみ町	2,401	152	58	149	359	8	376	287	671	3	111	383	27	5	719	123	-	1,371	
背後圏計	103,334	16,031	639	1,646	18,316	44	11,320	13,265	24,629	769	4,250	20,382	1,851	490	28,102	4,330	215	60,389	

資料: 国勢調査より作成

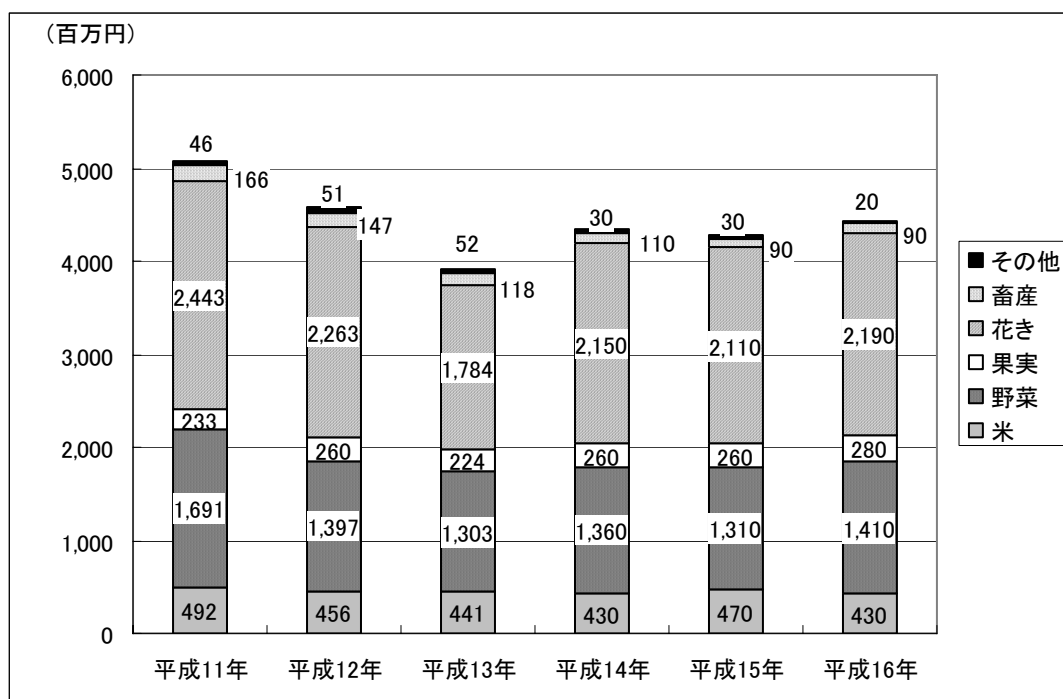
## (2) 農業

御坊市の農業算出額は、平成16年で44億3千万円と、5年前の平成11年と比べると12.6%の減少となっている。品目別の内訳を見ると、花きが21億9千万円（全体の49%）で1位、野菜が14億1千万円（32%）で2位となっており、この2品目で全体の81%を占めている。

【御坊市の農業産出額の推移】

（単位：百万円）

区分	合計	米	野菜	果実	花き	畜産	その他
平成11年	5,071	492	1,691	233	2,443	166	46
平成12年	4,574	456	1,397	260	2,263	147	51
平成13年	3,922	441	1,303	224	1,784	118	52
平成14年	4,340	430	1,360	260	2,150	110	30
平成15年	4,280	470	1,310	260	2,110	90	30
平成16年	4,430	430	1,410	280	2,190	90	20



資料：農林水産省和歌山統計事務所

(3) 林業

① 森林の概要

御坊市（日高港）の背後地域は県中央部に位置し、圏域総土地面積は18万ha（県土地面積の38%）に及ぶ。そのうちの90%にあたる16万haが森林面積で占められているが、うち民有林が15.4万ha、国有林0.7万haと、ほとんどを民有林が占めている。

背後圏で人工林の面積が多い市町村を挙げると、以下のとおりである。

御坊都市圏＝中津村、美山村など

田辺都市圏＝龍神村、中辺路町、大塔村、日置川町、すさみ町など

【森林面積と内訳】

(単位:ha)

	和歌山県	御坊都市圏								
		御坊市	美浜町	日高町	由良町	川辺町	中津村	美山村	印南町	
人工林	220,619	21,975	36	79	460	242	1,942	5,556	9,702	3,958
針葉樹	219,501	21,805	35	79	409	241	1,941	5,553	9,600	3,947
すぎ	94,485	9,320	10	-	105	50	521	1,993	5,687	954
ひのき	119,846	12,183	22	-	299	191	1,420	3,484	3,788	2,979
あかまつ・くろまつ	5,088	299	3	79	5	-	-	76	123	13
からまつ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
えぞまつ・とどまつ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	82	3	-	-	-	-	-	-	2	1
広葉樹	1,118	170	1	-	51	1	1	3	102	11
くぬぎ・なら	80	63	-	-	-	-	-	-	63	-
ふな	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	1,038	107	1	-	51	1	1	3	39	11
天然林	135,379	22,001	1,571	514	2,484	1,613	3,329	2,224	6,022	4,244
針葉樹	9,981	532	76	69	20	6	1	10	299	51
あかまつ・くろまつ	8,016	305	76	69	20	3	1	8	78	50
その他	1,965	227	-	-	-	3	-	2	221	1
広葉樹	125,398	21,469	1,495	445	2,464	1,607	3,328	2,214	5,723	4,193
くぬぎ・なら	58	5	-	-	-	-	-	-	5	-
ふな	97	24	-	-	-	-	-	-	24	-
その他	125,243	21,440	1,495	445	2,464	1,607	3,328	2,214	5,694	4,193

	田辺都市圏									背後圏計
	田辺市	龍神村	みなべ町	白浜町	中辺路町	大塔村	上富田町	日置川町	すさみ町	
77,294	2,639	17,220	4,074	1,662	15,215	14,639	2,796	7,812	11,237	99,269
77,079	2,639	17,154	4,072	1,641	15,154	14,595	2,793	7,807	11,224	98,884
27,601	583	9,654	964	329	5,293	5,572	580	1,987	2,639	36,921
47,787	1,907	7,279	3,087	1,192	9,527	8,882	2,037	5,583	8,293	59,970
1,683	149	217	20	120	333	139	176	237	292	1,982
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	-	4	1	-	1	2	-	-	-	11
215	-	66	2	21	61	44	3	5	13	385
13	-	-	-	-	-	12	-	-	1	76
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
202	-	66	2	21	61	32	3	5	12	309
38,237	4,771	6,643	4,036	2,476	4,285	6,205	863	4,143	4,815	60,238
2,126	466	691	6	311	296	106	74	135	41	2,658
1,371	466	205	6	294	147	48	73	91	41	1,676
755	-	486	-	17	149	58	1	44	-	982
36,111	4,305	5,952	4,030	2,165	3,989	6,099	789	4,008	4,774	57,580
21	-	20	-	-	1	-	-	-	-	26
44	-	43	-	-	1	-	-	-	-	68
36,046	4,305	5,889	4,030	2,165	3,987	6,099	789	4,008	4,774	57,486

資料：農林水産省「2000年世界農林業センサス(林業編)」より作成。

注：1 「林種別森林面積(森林計画面積)は、林野庁以外の官庁の所管する森林計画外面積を含んでいる。このため、「樹種別樹林地面積(森林計画面積)」と一致しない場合がある。

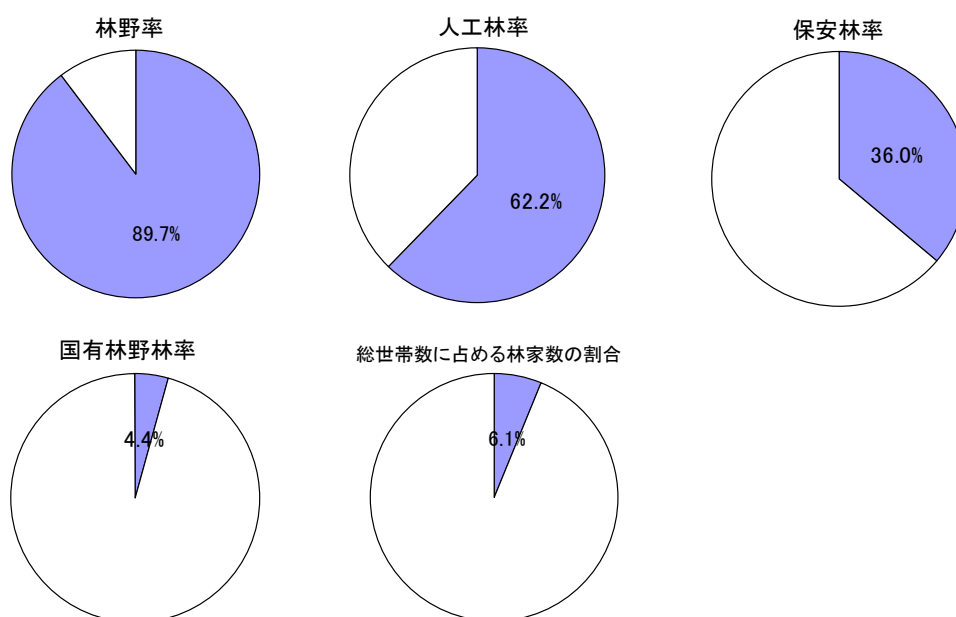
注：2 林家数及び林家以外の林業事業体数は保有山林面積1ha以上の林家及び事業体である。また、林産物販売家数及び保有山林の作業実施林家数は保有山林面積3ha以上の林家である。

主体となる民有林のうち過半数以上が人工林となっており、樹種別面積割合はスギ、ヒノキがそれぞれ 23%、38%となっている。また、人工林の齢級構成は、間伐等保育施業が必要な7 齢級以下の林分がおおむね8 割を占めている。

## ② 林野面積、林家数

背後圏の林家数は 4,699 戸で総世帯数に占める林家数の割合は 6.1%であり、林家以外の林業事業体は 1,245 事業体(会社 30、社寺 61、共同事業体 821、各種団体・組合 36 など)である。

【背後圏の林野率、林家世帯数】



資料：農林水産省「2000年世界農林業センサス（林業編）」により作成



【背後地の林野面積、林家数等(その1)】

	単位	和歌山県御坊都市圏									
		御坊市	美浜町	日高町	由良町	川辺町	中津村	美山村	印南町		
【林野面積合計】	ha	362,824	44,433	1,630	600	3,069	1,898	5,297	7,823	15,883	8,233
国有林		17,903	1,829	-	-	88	-	-	27	1,239	475
林野庁		16,668	1,829	-	-	88	-	-	27	1,239	475
その他の官庁		1,235	0	-	-	-	-	-	-	-	-
民有林		344,921	42,604	1,630	600	2,981	1,898	5,297	7,796	14,644	7,758
緑資源公団		13,987	4,130	-	-	-	-	-	1,654	2,152	324
公有林		20,550	3,684	23	392	612	151	580	675	1,054	197
私有林		310,384	34,790	1,607	208	2,369	1,747	4,717	5,467	11,438	7,237
【林種別森林面積(森林計画面積)】	ha	362,137	44,354	1,622	600	3,067	1,887	5,291	7,819	15,841	8,227
森林面積計		362,137	44,354	1,622	600	3,067	1,887	5,291	7,819	15,841	8,227
植林地		357,190	43,976	1,607	593	2,944	1,855	5,271	7,780	15,724	8,202
人工林		221,375	21,975	36	79	460	242	1,942	5,556	9,702	3,958
天然林		135,815	22,001	1,571	514	2,484	1,613	3,329	2,224	6,022	4,244
竹林		2,209	198	-	5	120	28	16	6	15	8
伐採跡地		1,492	104	-	-	-	-	-	16	77	11
未立木地		1,246	76	15	2	3	4	4	17	25	6
【林家数】	戸	14,016	1,902	270	46	214	180	351	206	242	393
林産物を販売した林家数(実数)		214	33	5	-	9	1	4	5	7	2
用材(立木で)		58	5	2	-	-	-	-	-	2	1
用材(素材で)		84	9	2	-	1	-	2	2	1	1
ほだ木用原木		9	3	-	-	-	-	-	1	1	1
特用林産物		79	18	1	-	8	1	2	2	4	-
保有山林の作業実施林家数											
植林作業		133	15	5	-	-	1	1	1	4	3
下刈りなど		1,183	119	12	1	3	5	25	19	39	15
間伐		1,299	98	5	-	11	2	14	26	27	13
主伐		87	10	3	-	1	-	2	2	1	1
農家林家数		8,166	1,396	123	10	168	124	293	160	170	348
【林家以外の林業事業体数】	事業体	2,639	492	65	8	30	25	97	147	55	65
会社		182	8	4	-	-	2	-	1	1	-
社寺		221	27	1	-	7	5	4	2	3	5
共同		1,599	274	35	1	6	6	66	105	34	21
各種団体・組合		88	10	2	2	1	4	-	1	-	-
慣行共有		477	159	21	4	10	7	26	36	17	38
その他		72	14	2	1	6	1	1	2	-	1
【林業サービス事業体数】	事業体	90	16	1	-	-	-	1	4	9	1
森林組合		30	3	-	-	-	-	-	1	1	1
各種団体・組合		1	1	-	-	-	-	-	-	1	-
会社		18	3	1	-	-	-	1	1	-	-
個人		41	9	-	-	-	-	-	2	7	-
【林業十時世帯員数】	人	2,297	217	14	1	24	7	37	39	59	36
【森林の公益的利用面積】	ha										
現況森林面積計		362,804	44,431	1,630	600	3,067	1,898	5,297	7,823	15,883	8,233
保安林		106,797	19,912	371	104	71	67	409	5,163	12,081	1,646
砂防指定地		2,896	289	10	19	136	-	2	24	86	12
自然公園		34,015	1,285	6	515	449	315	-	-	-	-
鳥獣保護区		15,343	1,712	-	140	96	-	197	2	803	474
自然環境保全地域		322	86	-	-	-	-	3	-	79	4
レクリエーション森林		2,031	54	-	37	-	-	-	17	-	-

【背後地の林野面積、林家数等(その2)】

	単位	田辺都市圏										後背圏計
		田辺市	龍神村	みなべ町	白浜町	中辺路町	大塔村	上富田町	日置川町	すさみ町		
【林野面積合計】	ha	117,002	7,608	24,232	8,191	4,371	19,684	21,014	3,697	12,012	16,193	161,435
国有林		5,290	-	1,489	73	-	1,333	1,271	51	1	1,072	7,119
林野庁		5,286	-	1,489	73	-	1,333	1,271	51	-	1,069	7,115
その他の官庁		4	-	-	-	-	-	-	-	1	3	4
私有林		111,712	7,608	22,743	8,118	4,371	18,351	19,743	3,646	12,011	15,121	154,316
緑資源公団		4,387	254	1,168	-	-	1,628	1,209	-	39	89	8,517
公有林		6,674	145	3,016	433	129	329	1,760	147	491	224	10,358
私有林		100,651	7,209	18,559	7,685	4,242	16,394	16,774	3,499	11,481	14,808	135,441
【林種別森林面積(森林計画面積)】	ha	116,712	7,551	24,232	8,187	4,157	19,679	21,004	3,697	12,012	16,193	161,066
森林面積計		115,535	7,410	23,863	8,110	4,138	19,500	20,844	3,659	11,956	16,055	159,511
植林地		77,294	2,639	17,220	4,074	1,662	15,215	14,639	2,796	7,812	11,237	99,269
人工林		38,241	4,771	6,643	4,036	2,476	4,285	6,205	863	4,144	4,818	60,242
天然林		155	63	15	22	11	6	4	13	16	5	353
竹林		555	1	158	14	-	99	112	13	37	121	659
伐採跡地		467	77	196	41	8	74	44	12	3	12	543
未立木地		2,797	755	310	441	159	289	243	235	156	209	4,699
【林家数】	戸	83	21	25	7	2	4	7	4	9	4	116
林産物を販売した林家数(実数)		17	8	4	-	-	1	1	-	2	1	22
用材(立木で)		43	10	14	1	1	3	4	6	3	52	
用材(素材で)		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
ほだ木用原木		25	3	10	5	1	2	3	-	1	-	43
特用林産物		18	5	5	2	1	-	-	2	1	2	33
保有山林の作業実施林家数		233	55	56	22	8	19	27	16	10	20	352
植林作業		331	79	63	36	13	35	46	23	11	25	429
下刈りなど		39	10	13	1	2	-	3	2	6	2	49
間伐		1,697	406	208	370	57	180	150	149	88	89	3,093
主伐		753	29	93	46	46	83	127	158	42	129	1,245
農家林家数		22	6	1	3	7	-	-	4	-	1	30
【林家以外の林業事業体数】	事業体	34	9	2	7	2	2	3	5	2	2	61
会社		547	2	81	17	14	52	116	136	27	102	821
社寺		26	1	2	1	3	7	3	5	-	4	36
共同		110	10	6	17	18	21	2	7	12	17	269
各種団体・組合		14	1	1	1	2	1	3	1	1	3	28
慣行共有		24	7	5	2	-	2	1	1	2	4	40
その他		6	-	1	-	-	1	1	-	1	1	9
【林業サービス事業体数】	事業体	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
森林組合		5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	8
各種団体・組合		13	2	4	1	-	1	-	1	1	3	22
会社		461	90	123	47	12	44	58	31	22	34	678
個人		117,001	7,608	24,232	8,191	4,371	19,683	21,014	3,697	12,012	16,193	161,432
【林業十時帯員数】	人	38,241	2,307	11,161	969	658	10,686	8,485	160	1,840	1,975	58,153
【森林の公益的利用面積】	ha	1,384	194	166	154	16	379	79	146	163	87	1,673
現況森林面積計		10,129	725	5,203	28	216	-	1,623	-	1,717	617	11,414
保安林		3,033	534	469	-	644	100	893	39	300	54	4,745
砂防指定地		229	-	225	-	-	-	-	-	-	4	315
自然公園		636	108	329	-	20	172	7	-	-	-	690
鳥獣保護区												
自然環境保全地域												
レクリエーション森林												

資料：農林水産省「2000年世界農林業センサス(林業編)」より作成。

注：1 「林種別森林面積(森林計画面積)は、林野庁以外の官庁の所管する森林計画外面積を含んでいる。

このため、「樹種別樹林地面積(森林計画面積)」と一致しない場合がある。

注：2 林家数及び林家以外の林業事業体数は保有山林面積1ha以上の林家及び事業体である。また、林産物販売家数及び保有山林の作業実施林家数は保有山林面積3ha以上の林家である。

#### (4) 製造業

##### ① 事業所数、従業員数

平成 16 年度の背後圏の製造業事業所数は 557 事業所(和歌山県の 22.5%)、従業員数 10,359 人(同 19.5%)、出荷額等 1,774 億円(同 7.5%)である。

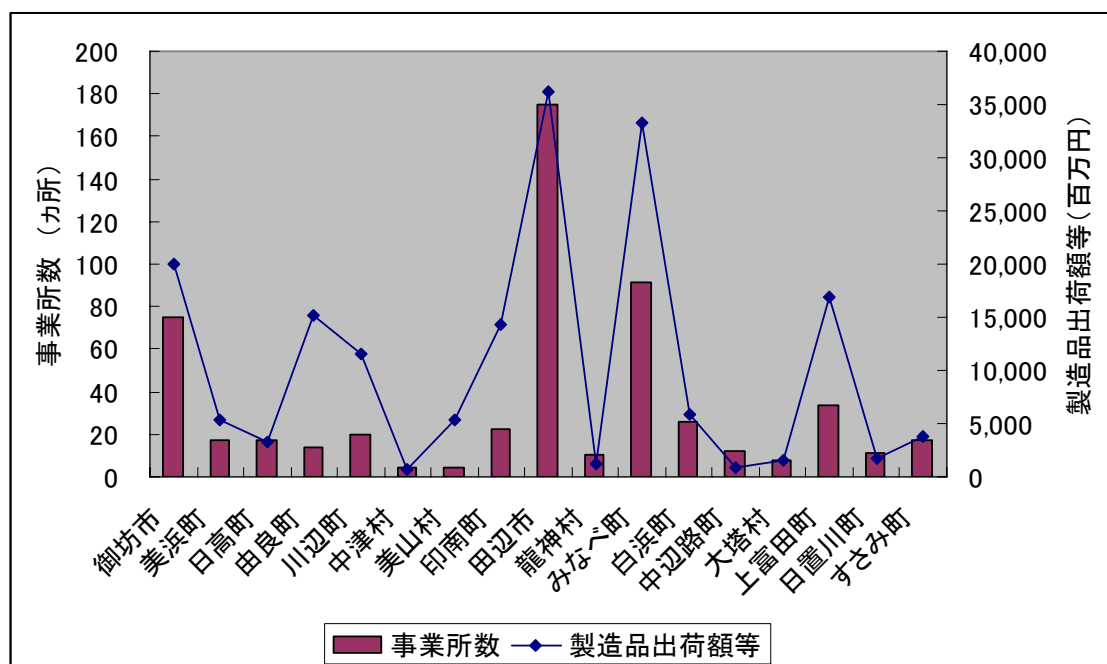
市町村別に見ると事業所、従業員数、出荷額が最も多いのはいずれも田辺市で 175 事業所、従業員数 2,607 人、出荷額 362 億円。第 2 位は合併により発足したみなべ町であり、91 事業所、従業員 1,783 人、333 億円と、いずれの数値も御坊市(75 事業所、従業員 1,156 人、出荷額 201 億円)を上回っている。みなべ町は南高梅ブランドの食品加工業が中心である。

【市町村別製造業の事業所、出荷額等(平成 16 年)】

市区町村	事業所数 H16	従業者数 H16 (人)	製造品 出荷額等 H16 (百万円)
和歌山県	2,473	53,130	2,364,304
御坊都市圏	173	3,545	75,918
御坊市	75	1,156	20,082
美浜町	17	284	5,318
日高町	17	159	3,350
由良町	14	449	15,193
川辺町	20	617	11,491
中津村	4	32	676
美山村	4	165	5,430
印南町	22	683	14,378
田辺都市圏	384	6,814	101,488
田辺市	175	2,607	36,167
龍神村	10	150	1,213
みなべ町	91	1,783	33,277
白浜町	26	582	5,835
中辺路町	12	145	947
大塔村	8	128	1,513
上富田町	34	1,046	16,956
日置川町	11	170	1,728
すさみ町	17	203	3,852
後背圏計	557	10,359	177,406

注) 工業統計表は従業員 4 人以上の事業者が対象  
資料：工業統計表(H16 年度)

【市町村別製造業の事業所、出荷額等（平成16年）】



② 製造業産業別出荷額

御坊市の製造業出荷額を品目別に見ると、1位：木材・木製品、2位：一般機械器具、3位：プラスチック製品（マージャン牌は全国トップシェア）、4位：食料品となっている。

御坊市は、日高川の水運を生きし、上流の龍神村などから伐出した木材の集散地集として発展してきた歴史を持つ。現在でも、御坊市周辺の地場産業は木材加工業であり、日高港・名屋地区には多くの木材加工関連事業者の集積が見られる。

【御坊市の製造品出荷額】

	製造品 出荷額等 (百万円)	同 構成比 (%)
食料品	1,996.3	9.9%
繊維工業	961.8	4.8%
衣服・その他の繊維製品	230.8	1.1%
木材・木製品	3,875.3	19.3%
家具・装備品	X	—
印刷・同関連業	X	—
化学工業	X	—
プラスチック製品	2,354.7	11.7%
ゴム製品	X	—
窯業・土石製品	888.5	4.4%
金属製品	1,487.1	7.4%
一般機械器具	2,423.2	12.1%
電子部品・デバイス	X	—
輸送用機械器具	X	—
精密機械器具	X	—
その他の製造業	467.5	2.3%
製造業計	20,082.5	100.0%

資料：H16 工業統計表より

## (5) 商業

背後圏の平成16年の商業販売額は3,540億円（卸売販売額1,598億円、小売業販売額1,920億円）で、和歌山県の19.1%を占める。平成11年からの推移を見ると、いずれの数値も減少している。

また、地域の拠点性の指標となる卸売販売額については、近年の動向（H11→16の5年間）を見ると、御坊市は▲44.9%と大きく減少しており、背後圏全体の減少率▲22.6%を大幅に上回る落ち込みとなっている。ちなみに和歌山県平均では▲17.1%の落ち込みであり、背後圏全体の商業の衰退傾向が明らかである。

### 【御坊市、背後圏の卸売業、小売業年間販売額】

(単位:万円)

	平成11年			平成14年			平成16年		
	卸売業販売額	小売業販売額	年間販売額	卸売業販売額	小売業販売額	年間販売額	卸売業販売額	小売業販売額	年間販売額
和歌山県	117,469,765	106,371,852	223,841,617	98,497,471	98,728,549	197,226,020	91,195,714	94,356,005	185,551,719
御坊都市圏	6,316,446	6,215,292	12,635,968	5,806,814	5,622,812	11,738,036	3,773,724	5,676,884	9,450,608
御坊市	5,152,664	4,057,795	9,210,459	4,752,308	4,095,405	8,837,713	2,840,570	4,062,049	6,902,619
美浜町	264,646	491,632	756,278	270,043	196,857	466,900	260,092	213,293	473,385
日高町	279,173	277,565	556,738	178,149	301,543	479,692	197,750	267,243	464,993
由良町	255,475	448,081	703,556	418,930	350,202	769,132	255,559	328,930	584,489
川辺町	73,221	253,349	326,570	×	×	224,035	16,105	218,654	234,759
中津村	×	×	104,230	-	85,009	85,009	-	60,409	60,409
美山村	-	89,546	89,546	×	×	84,375	×	×	84,139
印南町	291,267	597,324	888,591	187,384	603,796	791,180	203,648	526,306	729,954
田辺都市圏	14,331,823	15,583,617	30,542,766	12,638,488	13,470,321	26,510,652	12,205,724	13,525,152	25,940,637
田辺市	12,041,225	10,145,748	22,186,973	10,595,483	8,570,728	19,166,211	10,113,859	8,395,359	18,509,218
龍神村	×	×	249,405	×	×	250,152	×	×	209,761
南部川村	×	×	240,759	118,312	147,952	266,264	348,723	160,423	509,146
南部町	745,599	1,007,924	1,753,523	579,242	843,924	1,423,166	575,702	885,261	1,460,963
白浜町	302,592	2,461,238	2,763,830	294,703	2,054,141	2,348,844	317,264	2,175,089	2,492,353
中辺路町	-	191,786	191,786	-	154,445	154,445	4,822	83,753	88,575
大塔村	×	×	137,162	×	×	151,691	-	140,823	140,823
上富田町	1,002,140	1,077,314	2,079,454	850,208	1,086,965	1,937,173	625,412	1,200,235	1,825,647
日置川町	98,881	335,867	434,748	60,787	303,948	364,735	67,953	221,942	289,895
すさみ町	141,386	363,740	505,126	139,753	308,218	447,971	151,989	262,267	414,256
背後圏計	20,648,269	21,798,909	43,178,734	18,445,302	19,093,133	38,248,688	15,979,448	19,202,036	35,391,245

資料:商業統計各年版より作成

## (6) 市町村内総生産 (H14年度)

背後圏の市町村内総生産の計は5,800億円(平成14年)であり、和歌山県の17.3%を占めている。

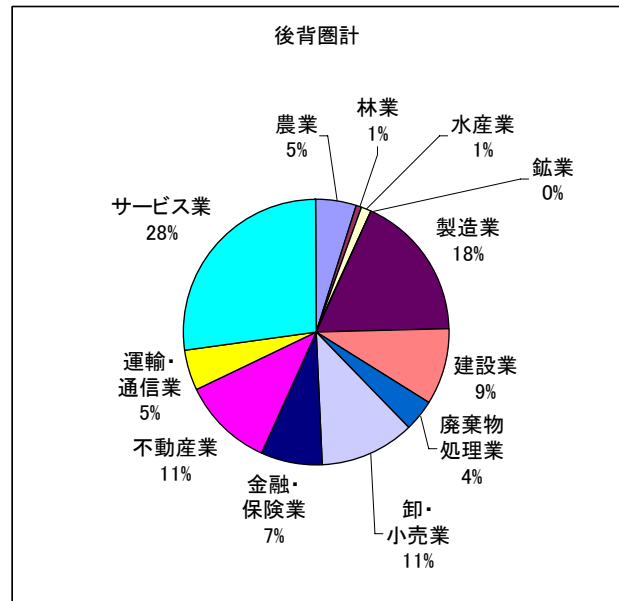
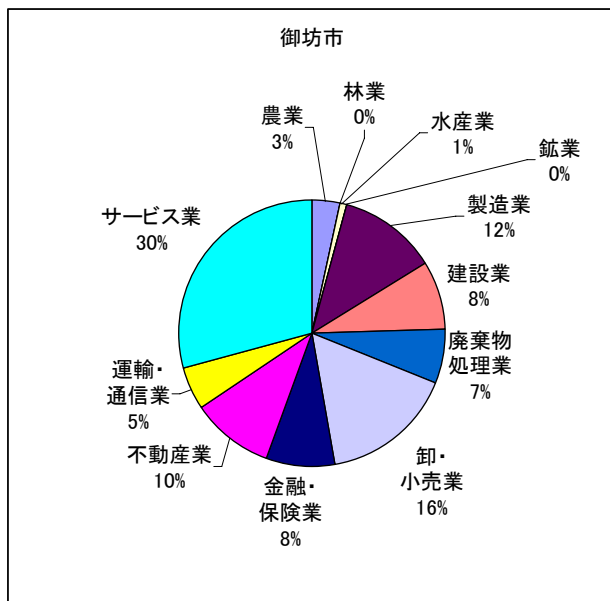
御坊都市圏と、田辺都市圏の市町村内総生産は、それぞれ、1,753億円、3,469億円で、田辺都市圏が御坊都市圏の約2倍となっている。

【各市町村の産業別総生産】

(単位:百万円)

	H7	8	9	10	11	12	13	14
和歌山県	3,363,982	3,440,273	3,404,103	3,391,926	3,376,907	3,382,220	3,346,004	3,345,787
御坊都市圏	212,546	212,679	207,179	211,425	212,366	209,564	198,573	194,528
御坊市	99,654	101,899	99,569	102,444	103,132	102,237	96,278	96,290
美浜町	15,911	17,182	16,793	18,180	17,085	16,415	15,691	15,890
日高町	16,489	14,641	13,905	14,604	15,192	13,988	13,906	13,156
由良町	26,768	28,161	25,191	21,559	21,680	22,126	22,918	23,620
川辺町	16,511	14,517	14,951	15,533	14,985	16,221	15,802	17,222
中津村	7,849	7,420	7,043	7,454	7,867	8,246	7,298	743
美山村	7,554	6,669	7,019	7,164	7,664	6,321	5,508	5,078
印南町	21,810	22,190	22,708	24,487	24,761	24,010	21,172	22,529
田辺都市圏	412,843	414,218	408,034	410,656	414,784	402,994	380,318	385,495
田辺市	203,798	207,145	203,382	206,331	206,293	203,726	192,791	196,808
龍神村	12,727	10,851	11,115	11,086	10,717	10,037	9,673	9,084
南部川村	19,682	18,730	20,562	20,056	20,962	19,023	17,727	17,674
南部町	27,319	29,467	29,832	29,758	31,864	30,190	28,611	29,065
白浜町	63,729	66,734	65,202	66,768	65,055	64,497	61,363	60,383
中辺路町	11,192	10,141	9,454	8,824	8,118	7,437	6,475	6,792
大塔村	7,863	7,504	7,657	6,704	7,273	6,829	6,134	6,159
上富田町	40,409	37,627	36,363	36,890	37,335	36,060	34,750	36,179
日置川町	11,655	11,458	11,279	11,124	12,868	11,636	10,224	10,602
すさみ町	14,469	14,561	13,188	13,115	14,299	13,559	12,570	12,749
背後圏計	625,389	626,897	615,213	622,081	627,150	612,558	578,891	580,023

資料:「市町村民経済計算推計」和歌山県等

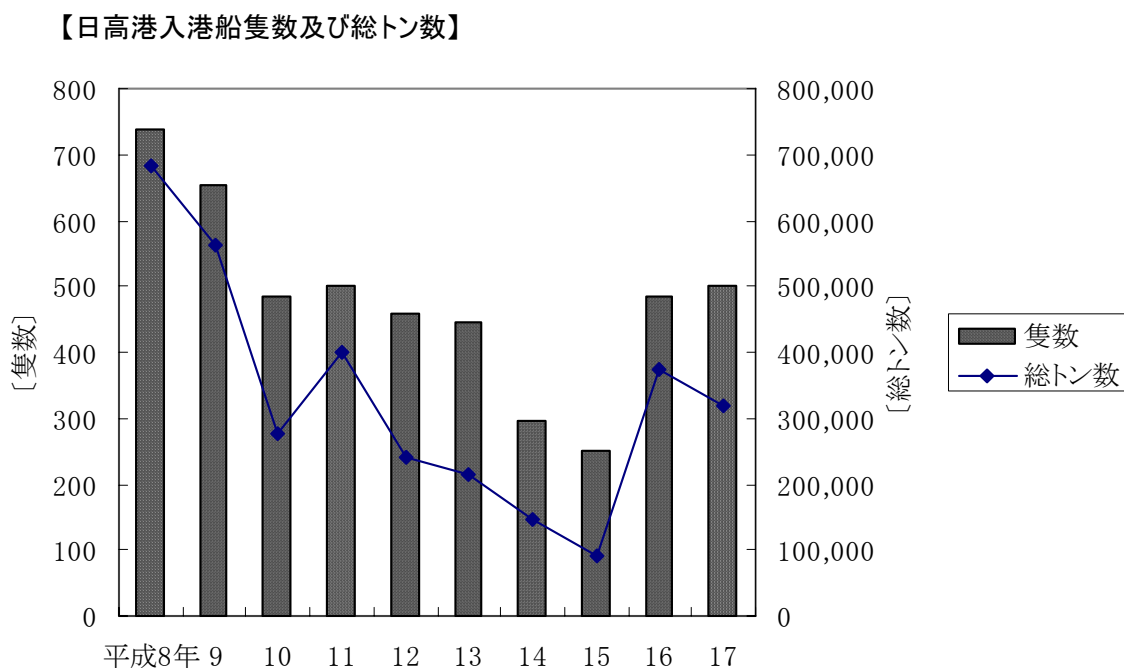




1. 入港船舶隻数及び総トン数

日高港の入港船舶隻数は、平成8年には739隻、総トン数683千トンであったが、その後減少傾向にあり平成15年には251隻（いずれも内航商船）、総トン数91千トンまで落ち込んだ。

しかし、平成16年4月に塩屋地区が供用開始されたため、平成16年486隻、375千トン、平成17年502隻、318千トンと増加している。



【内航商船の隻数・総トン数の推移】

		平成8年	9	10	11	12	13	14	15	16	17
内航商船	隻数	733	653	483	501	455	445	296	251	481	501
	総トン数	682,274	561,975	277,597	400,474	240,455	213,758	145,462	90,951	372,489	317,626
その他	隻数	6	0	0	0	3	0	1	0	5	1
	総トン数	1,131	0	0	0	597	0	98	0	2,475	170
計	隻数	739	653	483	501	458	445	297	251	486	502
	総トン数	683,405	561,975	277,597	400,474	241,052	213,758	145,560	90,951	374,964	317,796

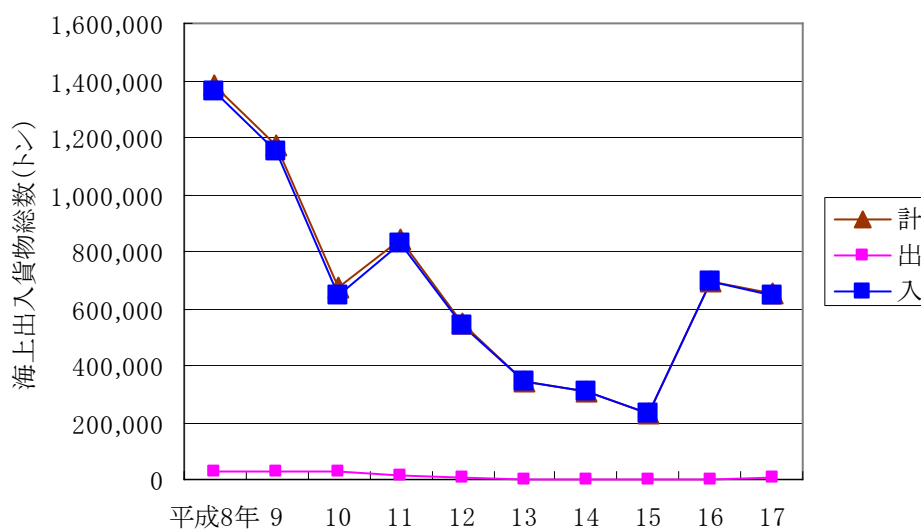
資料：港湾統計より作成

## 2. 取り扱い貨物量

日高港の取り扱い貨物量は、内国貿易のみであり、平成8年で1,385千トンあったが、その後、減少傾向が続き平成17年で651千トンとなっている。

平成17年の移入は644千トン、移出は6千トンであり、移入偏重になっている。

【日高港の取り扱い貨物量の推移】



(単位：トン)

	計	出	入
平成8年	1,384,840	26,484	1,358,356
9	1,174,498	25,591	1,148,907
10	672,265	25,433	646,832
11	842,373	16,800	825,573
12	545,842	5,710	540,132
13	344,567	0	344,567
14	306,315	0	306,315
15	233,901	0	233,901
16	695,471	818	694,653
17	650,554	6,013	644,541

資料：和歌山港湾統計年報

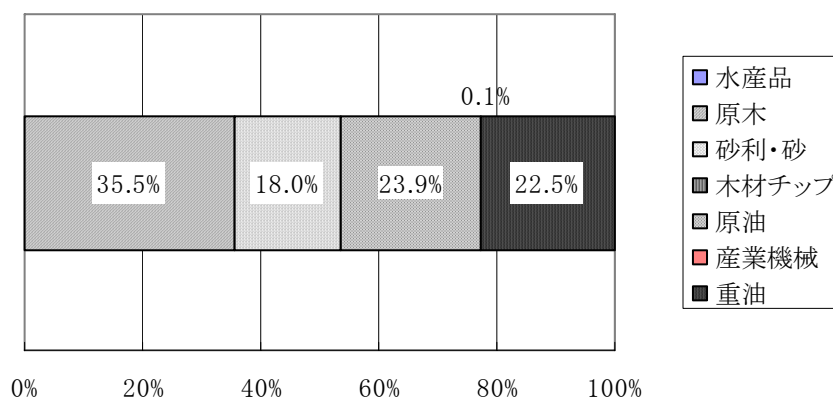
### 3. 品目別取り扱い貨物量

日高港の品目別取り扱い貨物量は、平成14年には原木が最も多く109千トン(35.5%)、次いで原油73千トン(23.9%)、重油69千トン(22.5%)、砂利・砂55千トン(18.0%)となっている。

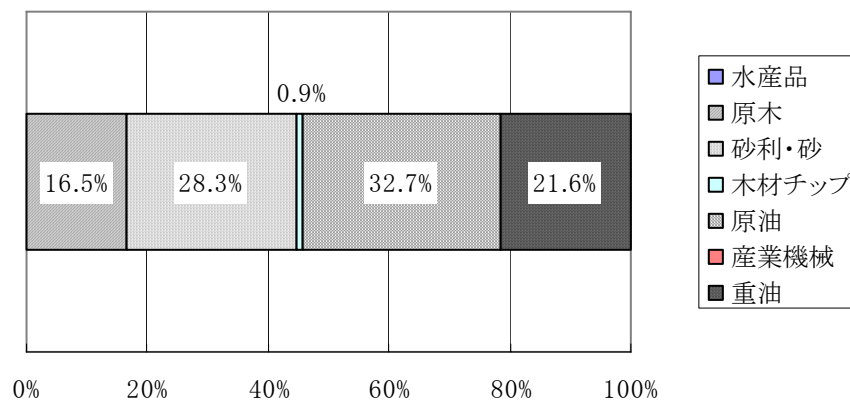
平成17年は、原油が最も多く213千トン(32.7%)、次いで砂利・砂184千トン(28.3%)、重油140千トン(21.6%)、原木107千トン(16.5%)の順になっている。

平成17年の取り扱い貨物量と平成14年のそれとを比較すると、「砂利・砂」が3倍近くに伸びて、シェアも10ポイント程度上がっている。

【平成14年品目別取り扱い貨物量】



【平成17年品目別取り扱い貨物量】



【品目別取り扱い量】

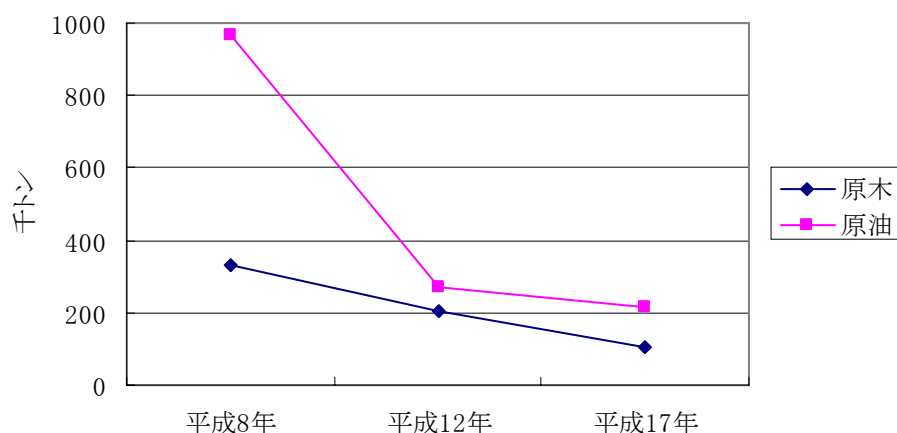
(単位:トン)

	平成14年		平成17年	
	取扱量	シェア	取扱量	シェア
水産品	0	0.0%	24	0.0%
原木	108,849	35.5%	107,197	16.5%
砂利・砂	55,000	18.0%	183,915	28.3%
木材チップ	0	0.0%	6,102	0.9%
原油	73,085	23.9%	212,951	32.7%
産業機械	330	0.1%	107	0.0%
重油	69,051	22.5%	140,258	21.6%
計	306,315	100.0%	650,554	100.0%

資料：和歌山県港湾統計年報

## <主要品目の経年変化>

【日高港取り扱い貨物主要品目（原木、原油）の変化】



(単位:千トン)

主要品目	平成8年	平成12年	平成17年
原木	329	204	107
原油	966	273	213

資料：和歌山県港湾統計年鑑

## 4. 港湾貨物の流動

### (1) 移入貨物の流動状況（平成17年）

#### ① 原木

平成17年に日高港に移入された原木の仕出港は、徳島小松島港（徳島県）35千トン、尾道糸崎港（広島県）35千トン、阪南港（大阪府）11千トンなどで比較的近距离の港湾から輸送されている。

日高港の周辺地域は、古くから木材の集散地として栄えてきた歴史から製材業が盛んであり、国産材や輸入材の製材が行われている。しかし、約20年前には40数社ほどあった製材業者は、海外からの輸入材などとの競合により厳しい状況が続いており、現在では10数社程まで減少している。

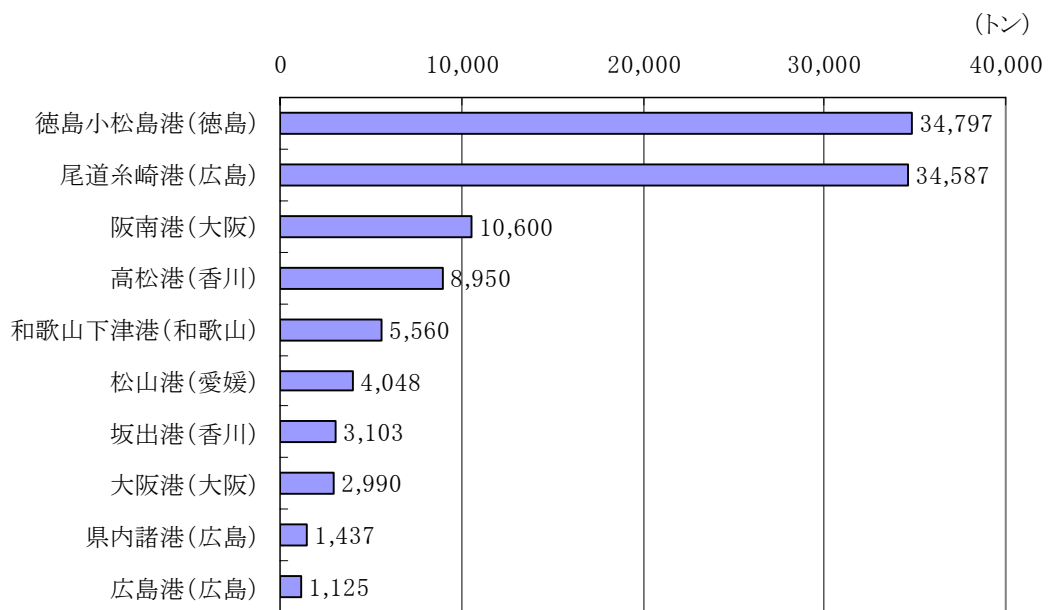
こうした御坊市にある製材関連の企業は、主に徳島小松島港、尾道糸崎港等に入港する本船から内航船に積み替えて日高港を経由して工場に材料を搬入している。

積極的に需要を開拓してそれに沿った製品開発を進めている企業は出荷量も伸ばしており、こうした企業は横持ち費用の削減と保管スペースの確保を目的に、距離的に近い港を利用しようとする。こうした条件下で、直接本船を日高港に入港させた方が内航船に積み替え輸送するコストが削減されるが、この場合は通関や検数、検量、燻蒸という作業を行う機能、施設が必要となる。

平成 18 年 7 月に実施した地元製材業者（対象 12 社）へのヒアリング結果によると、各製材業者ごとに原木の購入元（商社、問屋）が異なる上、代金の支払い形態が異なること、荷役、玉切り・皮むき等の作業を外注している企業が西川地区に立地していること、また、製材工場の立地箇所が西川地区周辺に集中しているため塩屋地区の利用には陸送費のコスト増がデメリットとなることが指摘されている。

また、「日高港振興ビジョン調査業務報告書(平成 15 年 3 月、和歌山県土木部港湾空港振興局)」の個別荷主に対するヒアリング調査結果でも、日高地区の製材業者はそれぞれ得意な材質があり、営業力も異なっているため、注文をまとめて海外に発注し、直接本船を日高港まで呼ぶだけのコーディネート機能を持つことの困難な点が指摘されている。

【原木の移入実績（平成 17 年）】

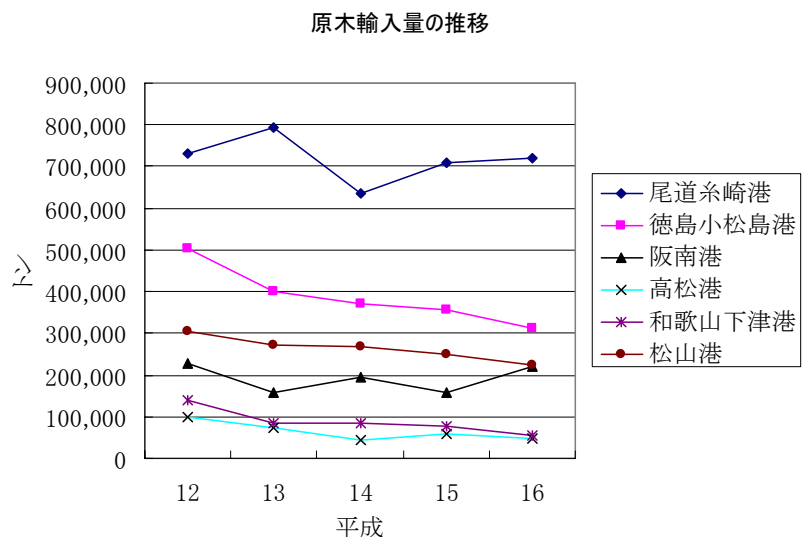


資料：港湾統計年報

※広島県の県内諸港とは、尾道糸崎港および広島港を除く県内の港

<参考> 日高港に原木を二次輸送している港湾の輸入量の推移

平成 17 年に日高港が原木を移入している仕出港の輸入量の推移を見ると、尾道糸崎港が最も多く 60~80 万トンを入力している。次いで徳島小松島港は平成 12 年と比べて 2/3 に減少しているが平成 16 年は 31 万トンの輸入量があった。



【日高港に原木を二次輸送している港湾の輸入量の推移】

(単位:トン)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
尾道糸崎港	732,653	792,095	635,528	709,282	721,239
徳島小松島港	504,963	401,378	372,590	356,897	312,527
阪南港	226,339	157,328	195,971	157,895	220,252
高松港	99,992	71,749	44,118	57,093	49,153
和歌山下津港	138,936	85,445	85,578	76,830	54,328
松山港	306,697	271,962	267,883	250,216	225,737

資料:港湾統計年報

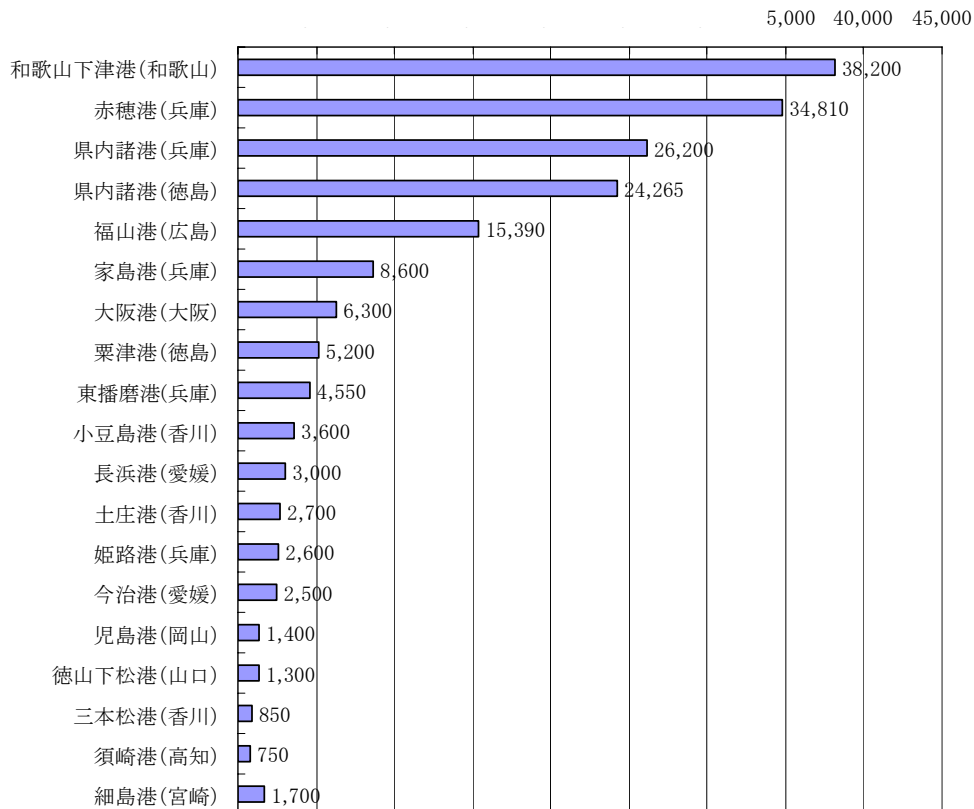
② 砂利・砂

平成17年の砂利・砂の取り扱い貨物量は、平成14年と比較して3.3倍と大幅に増加している。砂利・砂の仕出港は和歌山下津港38千トンが最も多く、次いで赤穂港35千トン、兵庫県内諸港、徳島県内諸港からが多い。土木建築用のセメント、砂利・砂の取扱いは御坊市内の生コン事業者が行っている。セメントの第一次輸送は、概ね各メーカーが臨港地区に持っているセメントサイロからローリー車で引き取り、生コン工場に搬入するため、海上輸送はセメントメーカーの手配するセメント専用船で行われている。現在、和歌山下津港、由良港や新宮港のセメントサイロから御坊市内にローリー車で輸送されることが多い。

一方、砂利・砂は地元産と瀬戸内海沿岸産のものがあるが、後者は船舶で輸送される。利用港は、日高港、由良港などである。

【砂利・砂の移入量(平成17年)】

(トン)



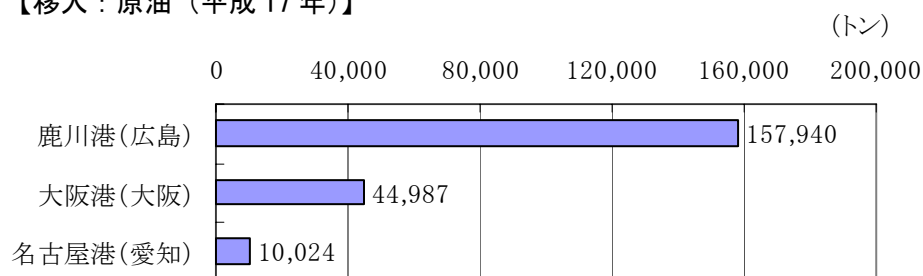
資料:和歌山県港湾統計年報



### ③ 原油

原油は鹿川港が圧倒的に多く（158千トン）、次いで大阪港（45千トン）、名古屋港（10千トン）の順である。

【移入：原油（平成17年）】



資料：和歌山県港湾統計年報

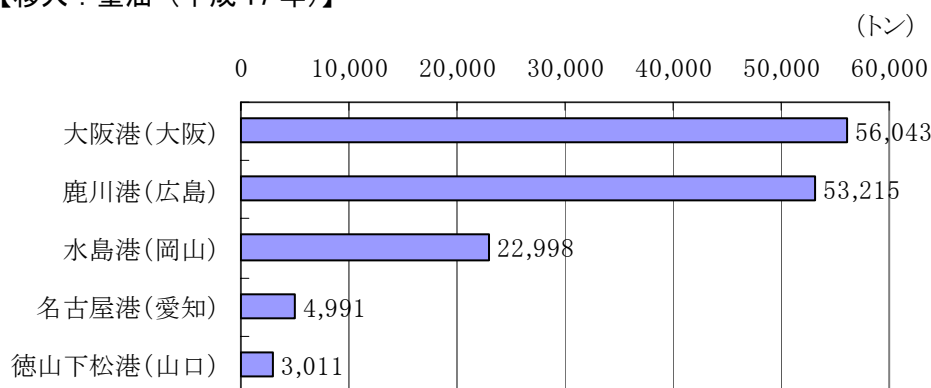
<参考>

平成16年鹿川港は原油1,259千トンを輸入しており、主に山口岩国港、大阪深日港、日高港等に1,207千トン移出している。

### ④ 重油

重油は、主に大阪港（56千トン）、鹿川港（53千トン）から移入しており、次いで水島港（23千トン）などである。

【移入：重油（平成17年）】



資料：和歌山県港湾統計年報

### ⑤ 水産品

港名	トン数
その他(海上)	24
計	24

資料：港湾統計年報

### ⑥ 木材・チップ

港名	トン数
富岡(徳島)	138
計	138

資料：港湾統計年報

### ⑦ 電気機械

港名	トン数
横浜(神奈川)	58
計	58

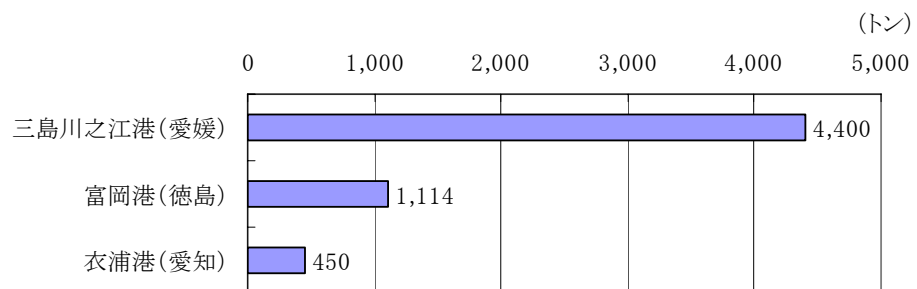
資料：港湾統計年報

## (2) 移出貨物の流動状況(平成 17 年)

### ① 木材・チップ

平成 16 年に塩屋地区が供用開始されたため、平成 17 年には木材・チップを三島川之江港(愛媛)に 4.4 千トン移出している。

【移入：木材・チップ(平成 17 年)】



資料：和歌山県港湾統計年報

## 1-4 現状における相手港、周辺港湾との関係

### 1. 和歌山下津港

和歌山下津港は、和歌山市、海南市、有田市にまたがる港湾で、昭和40年に特定重要港湾の指定を受け、臨海部に立地している鉄鋼業、石油精製業などの多くの有力企業の原材料や製品の物流の拠点となっている。

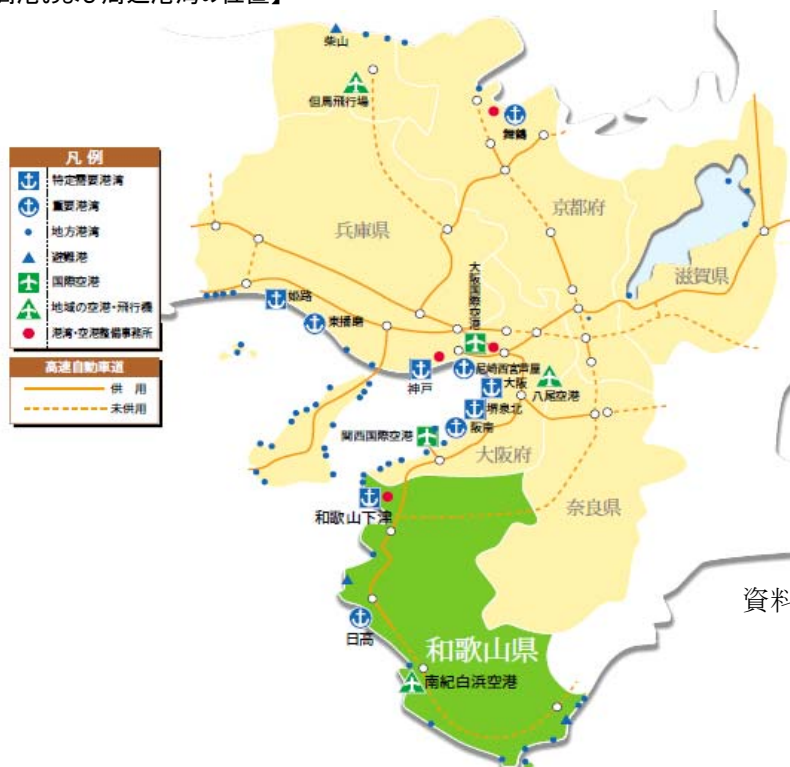
和歌山下津港は、和歌山北港区、和歌山本港区、和歌浦・海南港区、下津港、有田港区の5つの港区に分かれている。

本港区は、旧和歌山港発祥の地であり、古くから和歌山の流通の要として、原木、砂利・砂、セメント等の輸移入、機械、化学工業品の輸移出等の多岐に及ぶ総合的な流通の拠点である。平成13

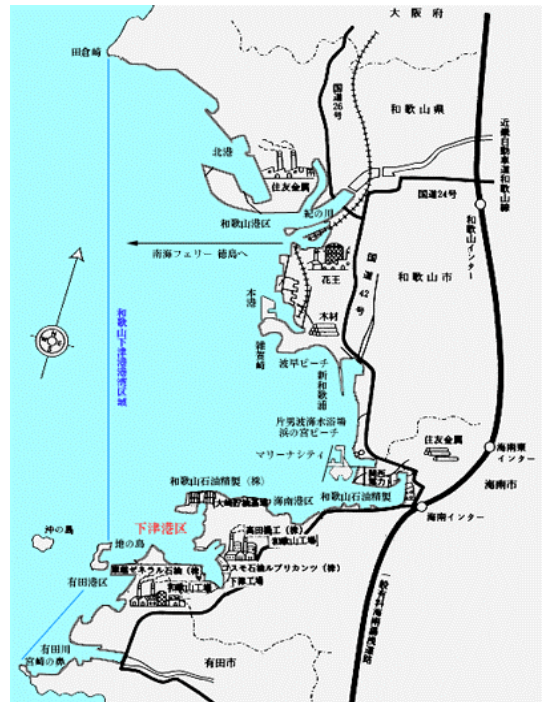
年西浜地区において40,000トン級の大型コンテナ船が接岸可能な岸壁やガントリークレーンを備えた国際コンテナターミナルがオープンした。毎週金曜日には、和歌山下津港と韓国釜山港との間で定期外航コンテナ航路が運航されている。

下津港は、和歌山県北部臨海工業地帯の中核をなし、天然の良港としての立地特性を踏まえて二大石油工場を有する我が国屈指の石油基地となっている。

#### 【日高港および周辺港湾の位置】



資料：近畿地方整備局資料



資料：海南市

(1) 輸出入貨物取り扱い量 (平成 16 年)

① 輸出

鋼材が圧倒的に多く、台湾、中国、韓国等へ輸出している。次いで石油製品、化学薬品、重油の順である。

【和歌山市下津港の輸出貨物量 (平成 16 年)】

品種	トン数	仕向国、最終船卸国
鋼材	1,783,523	台湾、中国、韓国 他
産業機械	3,919	韓国 他
重油	105,060	韓国
石油製品	189,938	韓国、台湾、シンガポール 他
LPG(液化天然ガス)	3,885	韓国
化学薬品	175,904	韓国、中国 他
染料・塗料・合成樹脂他	3,145	韓国 他
木製品	16,971	韓国
金属くず	4,028	中国
再利用資材	2,974	韓国、中国
輸送用容器	3,783	韓国、中国
その他	3,220	
計	2,296,350	

[注]千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

② 輸入

原油、鉄鉱石、石炭、非金属鉱物など、臨海部に立地する石油精製企業、鉄鋼関連企業の原料・製品となる貨物の輸入が圧倒的に多い。

【和歌山市下津港の輸入貨物量 (平成 16 年)】

品種	トン数	仕出国、最終船積国
野菜・果物	7,148	韓国、中国 他
原木	54,328	カナダ、ロシア
石炭	3,320,694	カナダ、オーストラリア 他
鉄鉱石	6,201,229	オーストラリア、ブラジル、インド 他
金属鉱	19,832	南アフリカ 他
砂利・砂	843,214	中国
石材	6,771	中国 他
原油	8,453,218	アラブ首長国、カタール、サウジアラビア 他
原塩	22,970	オーストラリア、中国 他
非金属鉱物	1,253,918	中国、タイ 他
鋼材	17,299	韓国、台湾 他
窯業品	5,587	中国 他
石油製品	945,597	シンガポール、韓国、タイ 他
その他石油製品	14,024	韓国
コークス	1,320	中国、韓国
石炭製品	10,263	中国、韓国
化学肥料	2,701	韓国、中国
染料・塗料・合成樹脂他	155,262	マレーシア、米国、韓国 他
糸及び紡績半製品	2,638	韓国 他
製造食品	3,132	韓国、タイ 他
家具装備品	8,778	ベトナム、韓国 他
再利用資材	1,666	韓国 他
その他	17,578	
計	21,369,167	

資料：国土交通省港湾調査

## (2) 移出入（内航貿易）取り扱い貨物量（平成16年）

移出は、石油製品が50%近くを占める。東京をはじめ全国諸港に移出している。次いで、重油、鋼材が多く、鋼材は大阪港、鹿島港などに移出されている。平成16年には、「砂利・砂」の移出及び「セメント」の移入の全国ベスト10に、和歌山下津港が入った。全国的に取り扱い量の多い砂利・砂の仕向先は、兵庫尼崎西宮芦屋港、大阪港、高知須崎港が多い。

一方、移入に関しては、赤穂港・須崎港等からのセメントが最も多く、次いで水島港・堺泉北港・横浜港等からの石油製品、高知港からの石灰石となっている。

### 【和歌山市下津港の移出貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕向先
原木	34,417	田辺港、日高港 他
木材チップ	12,540	山口平生港、三島川之江港
鉄鉱石	18,386	茨城鹿島港、橘港
砂利・砂	1,085,410	尼崎西宮芦屋港、大阪港、須崎港 他
石灰石	162,630	高知港
非金属鉱物	30,795	北九州港、尼崎西宮芦屋港 他
鉄鋼	11,952	茨城鹿島港 他
鋼材	1,235,820	大阪港、茨城鹿島港 他
セメント	1,038,767	大阪港、津松坂港、堺泉北港 他
窯業品	17,572	室蘭港、苫小牧港
重油	2,019,755	東京港、大阪港、清水港 他
石油製品	5,649,852	東京港、北九州港、名古屋港 他
LPG(液化天然ガス)	104,366	水島港、東京港 他
その他石油製品	105,689	水島港 他
コークス	80,429	北九州港、大阪港
化学薬品	258,609	水島港、下関港 他
化学肥料	4,258	八戸港
染料・塗料・合成樹脂他	10,280	千葉港 他
紙・パルプ	5,043	三島川之江港
金属くず	25,913	茨城鹿島港、川尻港 他
廃棄物	137,166	神戸港、(海上)
廃土砂	2,650	北九州港
その他	300	
計	12,052,599	

[注]千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

【和歌山市下津港の移入貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕出元
原木	51,293	坂出港、阪南港 他
鉄鉱石	9,807	姫路港 他
砂利・砂	371,763	(海上)、赤穂港、神戸港 他
原油	222,728	鹿川港、大阪港 他
石灰石	763,876	高知港
原塩	35,453	広島港 他
非金属鉱物	221,682	高知港、姫路港、大阪港 他
鉄鋼	12,692	茨城鹿島港
鋼材	244,357	茨城鹿島港 他
非鉄金属	6,506	横浜港、新居浜港
セメント	939,606	赤穂港、須崎港 他
重油	272,708	堺泉北港、坂出港 他
石油製品	853,696	水島港、堺泉北港、横浜港 他
LPG(液化天然ガス)	7,506	水島港、堺泉北港
その他石油製品	59,474	四日市港、水島港 他
コークス	154,911	千葉港、茨城鹿島港 他
化学薬品	279,146	大阪港、高知港 他
化学肥料	13,154	橘港、新居浜港 他
染料・塗料・合成樹脂他	30,001	神戸港、四日市港、今治港 他
金属くず	85,601	東京港、川崎港 他
計	4,635,960	

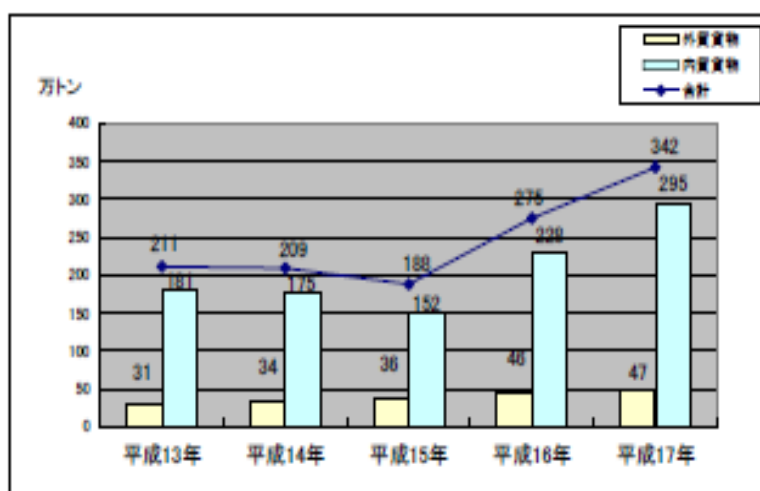
資料：国土交通省港湾調査

## 2. 阪南港

阪南港は、泉北郡忠岡町、岸和田市、貝塚市の3市町の南北約7kmにまたがる港湾である。阪南港の前身は、忠岡港、岸和田港、貝塚港の3港で、それぞれ特色のある歴史を重ねながら発展してきた。これらの港が最も大きな注目を集めたのは、昭和39年に開始された木材コンビナートの造成で、これを契機として、昭和43年に3港は統合され、重要港湾阪南港が誕生した。

そして現在、阪南港は関西国際空港に近接した港として大きな注目を集めており、これらのインパクトを最大限に活用するための積極的な港湾振興及び背後地域と整合性を持たせた様々な計画が進められている。

【阪南港 海上輸出入の推移】



資料：大阪府港湾局

### (1) 輸出入貨物取り扱い量（平成16年）

輸入が殆どであり、原木の輸入量が最も多く、主にカナダ、米国から輸入している。

次に多いのは木材チップ、輸入国はマレーシアである。

【阪南港の輸出貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕向国、最終船卸国
鋼材	39,908	韓国、中国
金属くず	36,100	中国、ベトナム
計	76,008	

資料：国土交通省港湾調査

【阪南港の輸入貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕出国、最終船積国
原木	220,252	カナダ、米国、ソロモン諸島 他
木材チップ	144,544	マレーシア
非金属鉱物	2,740	中国、韓国
鋼材	12,920	韓国
コークス	5,700	中国
その他		
計	387,666	

[注]千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

## (2) 移出入（内航貿易）貨物取り扱い量（平成16年）

原木は、和歌山下津港をはじめ日高港などの県内諸港に移出している。次いで、再利用資材を主に大分へ、鋼材を主に千葉港へ移出している。

移入で最も多いのは砂利・砂であり、主に坂出港から移入している。次いで鋼材を主に水島港から、石油製品を徳山下松港等から移入している。原木は主に尾道糸崎港から移入している。

### 【阪南港の移出貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕向先
原木	43,295	和歌山県内諸港、和歌山下津港 他
鋼材	27,184	千葉港、博多港 他
石油製品	4,500	大阪港
水	3,187	(海上)
再利用資材	36,541	大分港、愛媛四坂港 他
その他	575	
計	115,282	

〔注〕千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

### 【阪南港の移入貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕出元
麦	70,133	堺泉北港、大阪港 他
原木	17,042	尾道糸崎港、松山港、坂出港 他
木材チップ	4,230	水俣港 他
砂利・砂	540,145	坂出港、北九州港、高松港 他
非金属鉱物	162,470	岡山県内諸港、竹原港 他
鋼材	302,634	水島港、東播磨港 他
セメント	143,432	徳山下松港、荏田港 他
石油製品	287,992	徳山下松港、千葉港、堺泉北港 他
金属くず	16,444	水島港、和歌山下津港 他
その他	1,696	
計	1,546,218	

〔注〕千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査



### 3. 尾道糸崎港

尾道糸崎港は、天然の良港として古くから広島県備後地域と四国や周辺の島々を結ぶ、海上交通の要所として栄えてきた。また、江戸時代には北前船（北海道と大阪を結ぶ西回り航路）の寄港地として大いに繁栄した。

現在の尾道糸崎港は「糸崎港区」「尾道港区」「松永港区」の3つに分かれている。

そのうち松永港区は、明治中期には木履工業が起こり、アメリカなどから原木を輸入するための港湾施設整備が進められ、1956（昭和31）年6月には地方港湾の指定を受け、1964（昭和39）年10月には重要港湾である尾道糸崎港へ編入され、国内有数の木材港としての整備が進められている。

#### （1）輸出入貨物取り扱い量（平成16年）

輸入がほとんどであり、原木が、全輸入量の96%を占め、原木の輸入港の位置づけである。輸入元は、米国、パプアニューギニア（平成15年はニュージーランドが第2位）の順である。

##### 【尾道糸崎港の輸出貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕向国、最終船卸国
米	2,800	タンザニア
非金属鉱物	3,277	コンゴ共和国
鋼材	3,004	中国
その他輸送機械	3,140	韓国、香港
産業機械	2,014	中国
金属くず	2,100	中国
	16,335	

資料：国土交通省港湾調査

##### 【尾道糸崎港の輸入貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕出国、最終船積国
原木	721,239	米国、パプアニューギニア、韓国
非金属鉱物	16,325	韓国、中国
鋼材	9,041	韓国、中国
木製品	1,533	韓国
	748,138	

資料：国土交通省港湾調査

## (2) 移出入（内航貿易）貨物取り扱い量（平成16年）

移出は、海上での水を除くと、原木の移出が最も多く、平成16年は日高港への移出が最も多かった。

移入はセメントが最も多く、次いで鋼材、とうもろこし、砂利・砂が多い。

### 【尾道系崎港の移出貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕向先
原木	220,990	日高港、豊浜港、松山港 他
木材チップ	3,960	三島川之江港、宮崎港
砂利・砂	14,151	弓削港、北九州港
鋼材	118,393	瀬戸田港、因島港 他
金属製品	5,568	広島港 他
その他輸送機械	14,860	呉港 他
セメント	65,963	千葉港、大阪港、四日市港 他
重油	6,173	福山港 他
化学薬品	36,376	名古屋港、東播磨港 他
水	257,089	(海上)
金属くず	35,560	姫路港、兵庫県内諸港 他
廃棄物	17,555	宇部港 他
その他	2,164	
計	798,802	

[注]千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

### 【尾道系崎港の移入貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕出元
とうもろこし	154,212	水島港、坂出港 他
その他雑穀	47,548	水島港、神戸港 他
原木	8,245	高松港、松山港 他
石炭	99,570	宇部港
砂利・砂	138,515	今治港、福山港 他
石灰石	83,464	北九州港
非金属鉱物	7,119	東播磨港、福江港
鋼材	234,189	水島港、兵庫県内諸港、福山港 他
その他輸送用機械	51,427	因島港、佐伯港 他
セメント	250,920	山口県内諸港、津久見港 他
重油	1,500	愛媛菊間港
化学薬品	22,600	徳島小松島港、水島港
化学肥料	1,354	田子の浦港
染料・塗料・合成樹脂他	18,549	千葉県内諸港
その他	2,151	
計	1,121,363	

[注]千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

## (3) 原木の取り扱い

尾道地域では、古くから下駄の産地であり、明治時代には北海道の原木を内航船で移入していた歴史があり、原木を使用する企業が集積していた。その後、北海道の木材原料の枯渇につれて、北米材を輸入するようになった。集積のメリットから、機帆船で西日本の各地に原木を配分する機能が育った。当時は、港湾料金が安く独占的に木材を取り扱っていたが、最近では

四国の坂出港、高松港、徳島小松島港等の港湾使用料が値下げされ、これらの港湾に直接本船が入港するようになったため、松永港区での原木の取り扱い量は減少傾向にある。

原木の取り扱い量（外貿+内貿）は、2003（平成15）年には581千トンであったが2004（平成16）年では563千トンと約4%減少している。減少している理由としては、水面貯木のため、内航の機帆船への積み替えに手間が掛かるためである。また、最近では、乾燥材が好まれているのも一つの要因でもある。

尾道糸崎港は、輸入原木の取り扱い量が多く、外貿全体の約93%を占めている。主な相手国は、アメリカ、パプアニューギニア、ニュージーランド等である。

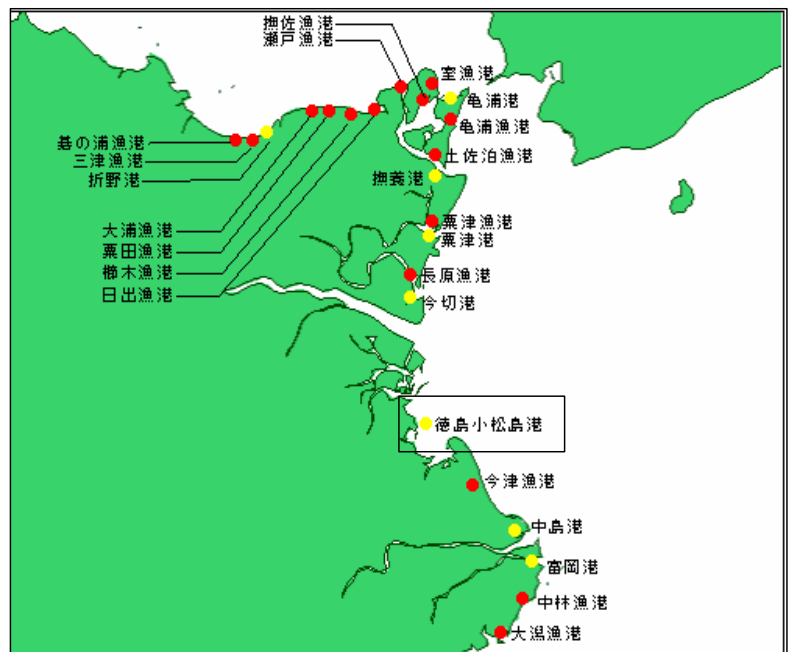
#### 4. 徳島小松島港

徳島県の徳島市・小松島市にわたる港湾である。

1964年に地方港湾の徳島港と重要港湾の小松島港が合併して徳島小松島港となり、重要港湾に指定されている。

かつては四国の玄関口の一つとして賑わいをみせていたが、1998年の明石海峡大橋の開業に伴う交通体系の変化により発着便数や航路が減少した。

取り扱い貨物としては、古くから木材（原木）の輸入を行っていたが、1995年6月沖洲地区に日韓定期コンテナ航路が開設されたことにより、食料品や衣類などの輸入も行われるようになった。



資料：徳島県

##### (1) 輸出入貨物取り扱い量（平成16年）

紙・パルプ、再利用資材、化学薬品等を主に韓国、タイ、中国へ輸出しているが、輸入が多くを占める。

輸入は、木材チップの取り扱いが圧倒的に多くオーストラリア、南アフリカ等から輸入している。次に多いのが原木であり、主にロシア、カナダから輸入している。その他、木製品、化学薬品、紙・パルプなどを韓国、中国、マレーシア等の東南アジアから輸入している。

【徳島小松島港の輸出貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕向国、最終船卸国
産業機械	3,441	中国、韓国 他
化学薬品	6,543	韓国、タイ 他
染料・塗料・合成樹脂他	1,195	韓国、中国 他
紙・パルプ	7,680	タイ、韓国、中国 他
金属くず	1,720	中国
再利用資材	6,955	中国、韓国 他
その他	6,176	
計	33,710	

[注]千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

【徳島小松島港の輸入貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕出国、最終船積国
野菜・果物	1,183	インドネシア 他
水産品	2,577	中国 他
原木	312,527	ロシア、カナダ、マレーシア 他
製材	6,328	韓国、中国、インドネシア 他
木材チップ	1,217,712	オーストラリア、南アフリカ、ベトナム 他
非金属鉱物	1,653	中国 他
金属製品	1,203	韓国 他
陶磁器	4,302	タイ 他
化学薬品	32,293	韓国、中国、インドネシア 他
化学肥料	1,150	中国
染料・塗料・合成樹脂他	1,063	韓国 他
紙・パルプ	16,438	インドネシア、ブラジル 他
製造食品	3,239	中国 他
衣服・身廻品・はきもの	4,512	韓国、中国 他
家具装備品	8,795	韓国、中国 他
その他日用品	4,802	韓国、中国 他
木製品	46,386	マレーシア、インドネシア 他
動植物性製造飼肥料	11,713	タイ、韓国 他
その他	2,101	
計	1,679,977	

[注]千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

(2) 移出入（内航貿易）貨物取り扱い量（平成16年）

移出は、非金属鉱物が最も多く主に赤穂港、徳山下松港に移出している。

移入は、最も多い石油製品が和歌山下津港から移入している。また、次に多いセメントは赤穂港、和歌山下津港から、鋼材は、大阪港等から移入している。

【徳島小松島港の移出貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕向先
非金属鉱物	604,637	赤穂港、徳山下松港 他
鋼材	1,791	大阪港
セメント	19,647	徳山下松港
重油	1,606	粟津港 他
染料・塗料・合成樹脂他	4,753	大阪港 他
金属くず	73,707	姫路港 他
その他	2,693	
計	708,834	

〔注〕千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

【徳島小松島港の移入貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕出元
麦	30,842	神戸港
木材チップ	9,595	堺泉北港、尾道糸崎港 他
砂利・砂	42,489	兵庫家島港 他
非金属鉱物	3,100	大分港
鋼材	109,539	大阪港、北九州港 他
金属製品	11,259	室蘭港、木更津港
セメント	165,843	赤穂港、和歌山下津港 他
重油	31,242	和歌山下津港 他
石油製品	261,214	和歌山下津港、水島港 他
化学肥料	7,734	名古屋港、北九州港 他
廃土砂	117,100	(海上)他
その他	2,258	
計	792,215	

〔注〕千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

## 5. 三島川之江港（愛媛県）

香川県との県境に位置する三島川之江港は、昭和45年8月、それまで独立して発展してきた三島港と川之江港が合併して生まれた。その後、昭和46年には国の重要港湾として位置づけられた。

三島川之江港は、製紙産業の発展と歩みを共にして県内有数の工業的性格の強い港といえる。

三島川之江港は、昭和44年に貿易港として開港以来、30年が過ぎ、その間、地場産業の製紙工業とともに規模拡大を続け、現在、フェリーを除く港湾貨物の取り扱い量については、愛媛県下を誇る港へと成長し、四国で2番目の取り扱い量となっている。

また、世界的に貨物のコンテナ化が進む中、外国からのコンテナ貨物の取り扱い量は増え続けており、順調な伸びを示している。これらの貨物のほとんどは製紙関連貨物であり、まさに紙のまち四国中央市ならではの特徴といえる。

四国中央市の製紙工場をはじめとする四国内の製紙会社（約130社）では、原料となるチップやパルプ、原木をはじめ、燃料となる石炭のほとんどを、国内ではなく世界各国からの輸入に頼っている。チップは主にアメリカから、またパルプはカナダ、ブラジル、チリなどから輸入され、

その荷揚げ基地となっている。日高港からは三島川之江港に向けて「木材・チップ」が年間 4,400 トン移出されている。

一方、商品へと加工された紙製品は、三島川之江港から、国内だけでなく台湾を中心にしたアジア各国へと輸出されている。現在では、香港や中国の上海へは紙製品が、また台湾へは新聞紙などが輸出されている。

三島川之江港は、四国最大規模の 9 万トン級の大型船が接岸できる水深 15 メートル岸壁を整備するなど、紙にまつわる原料や製品の輸出入の増大に伴い、港湾活動が発展してきた。今後は高速道路ネットワークを生かした四国の物流拠点としての機能だけでなく、日本と世界を結ぶ「国際港」としての役割をより認識し、世界の港湾との結びつきを強化することで、地場産業をはじめ、四国の産業の発展に大きな役割を果たすことが期待されている。

### (1) 輸出入貨物取り扱い量 (平成 16 年)

韓国に向けて紙・パルプを輸出しているが、輸入がほとんどを占める。

輸入量で最も多いのは、木材チップで主にオーストラリア、米国から輸入している。次に多いのは石炭であり、主にオーストラリアから輸入している。

#### 【三島川之江港の輸出貨物量 (平成 16 年)】

品種	トン数	仕向国、最終船卸国
非金属鉱物	1,448	中国
紙・パルプ	8,298	韓国
取合せ品	4,666	韓国 他
計	14,412	

資料：国土交通省港湾調査

#### 【三島川之江港の輸入貨物量 (平成 16 年)】

品種	トン数	仕出国、最終船積国
原木	113,418	チリ、ナイジェリア 他
木材チップ	3,331,957	オーストラリア、米国、チリ 他
石炭	1,632,186	オーストラリア、インドネシア 他
非金属鉱物	83,499	ブラジル、中国、米国 他
化学薬品	85,171	韓国、中国
染料・塗料・合成樹脂他	7,489	韓国 他
紙・パルプ	235,510	カナダ、米国、ブラジル 他
取合せ品	76,989	韓国、台湾
計	5,566,219	

資料：国土交通省港湾調査

### (2) 移出入 (内航貿易) 貨物取り扱い量 (平成 16 年)

移出は紙・パルプが最も多く、東京港、川崎港等に移出している。

移入品目で最も多いのは砂利・砂で主に愛媛波方港、今治港から移入している。

次に多いのは再利用資材で田子の浦港等から移入している。

【三島川之江港の移出貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕向先
砂利・砂	228,370	兵庫家島港、岡山港、福山港 他
非金属鉱物	4,550	岩国港 他
重油	56,547	(海上)
化学薬品	1,610	茨城鹿島港 他
紙・パルプ	1,441,327	東京港、川崎港、千葉港 他
水	34,234	(海上)
再利用資材	32,883	東京港、大阪港 他
廃棄物	353,316	宇部港、苅田港 他
取合せ品	61,725	千葉港 他
その他	1,390	
計	2,215,952	

[注] 千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

【三島川之江港の移入貨物量（平成16年）】

品種	トン数	仕出元
原木	26,493	久慈港、細島港 他
木材チップ	226,899	大分港、福山港 他
石炭	58,664	新浜港 他
砂利・砂	432,300	波方港、今治港 他
非金属鉱物	14,470	三河港、堺泉北港 他
完成自動車	6,634	千葉港
セメント	46,012	苅田港 他
重油	229,012	水島港、徳山下松港 他
石油製品	16,720	菊間港 他
その他石油製品	3,447	水島港 他
化学薬品	291,583	徳山下松港、水島港 他
染料・塗料・合成樹脂他	21,277	千葉港、川崎港
紙・パルプ	140,474	大阪港、横浜港、岩国港 他
製造食品	18,307	田子の浦港、衣浦港 他
再利用資材	394,465	川崎港、大阪港 他
取合せ品	115,972	千葉港、神戸港
その他	544	
計	2,043,273	

[注] 千トン以上を記載

資料：国土交通省港湾調査

## 6. 現状における相手港、周辺港湾との関係のまとめ

	1. 和歌山下津港	2. 阪南港	3. 尾道糸崎港	4. 徳島小松島港	5. 三島川之江港
(1)概要	和歌山市、海南市、有田市にまたがる港湾。昭和40年に特定重要港湾の指定。臨海部に立地している鉄鋼業、石油精製業などの多くの有力企業の原材料や製品の物流拠点。	泉北郡忠岡町、岸和田市、貝塚市の3市町の南北約7kmにまたがる港湾。昭和39年に開始された木材コンビナートの造成で発展、昭和43年に3港統合、重要港湾阪南港が誕生。	松永地区では、原木を輸入するための港湾施設整備が進められ、昭和39年には重要港湾である尾道糸崎港へ編入され、国内有数の木材港としての整備が進行中。	1964年に地方港湾の徳島港と重要港湾の小松島港が合併して徳島小松島港となり、重要港湾に指定。1998年の明石海峡大橋の開業に伴う交通体系の変化により発着便数や航路が減少。	製紙産業の発展と歩みを共にして県内有数の工業的性格の強い港。昭和44年に貿易港として開港以来、地場産業の製紙工業とともに規模拡大、現在、港湾貨物の取り扱い量は愛媛県下一。
(2)輸出貨物	鋼材が圧倒的に多く、台湾、中国、韓国等へ輸出。 輸出量:230万トン	鋼材、金属くず 輸出量:8万トン	非金属鉱物、輸送機械等 輸出量:2万トン	紙・パルプ、再利用資材等 輸出量:3万トン	紙・パルプ 輸出量:1万トン
(3)輸入貨物	原油、鉄鉱石、石炭、非金属鉱物など、臨海部に立地する石油精製企業、鉄鋼関連企業の原料・製品となる貨物の輸入が圧倒的。 輸入量:2,137万トン	原木の輸入量が最も多く、主にカナダ、米国から輸入。次に多いのは木材チップ、輸入国はマレーシア。 輸入量:39万トン	原木が、全輸入量の96%を占める。輸入元は、米国、パプアニューギニア(平成15年はニュージーランドが第2位)。 輸入量:75万トン	木材チップの取り扱いが圧倒的に多くオーストラリア、南アフリカ等から輸入。次に多いのが原木、主にロシア、カナダから輸入。 輸入量:168万トン	最も多いのは、木材チップで主にオーストラリア、米国から輸入。 輸入量:557万トン
(4)移出貨物	移出は、石油製品が50%近くを占める。次いで、重油、鋼材が多い。 移出量:1,205万トン	原木は、和歌山下津港をはじめ日高港などの和歌山県内諸港に移出。 移出量:12万トン	原木の移出が最も多く、平成16年は日高港への移出が最多。 移出量:80万トン	非金属鉱物が最も多く主に赤穂港、徳山下松港に移出。 移出量:71万トン	紙・パルプが最も多く、東京港、川崎港等に移出。 移出量:222万トン
(5)移入貨物	セメント、石油製品、石灰石が中心となっている。 移入量464万トン	最も多いのは砂利・砂、主に坂出港から移入。原木は主に尾道糸崎港から移入。 移入量:155万トン	セメント、鋼材の移入が多い。 移入量:112万トン	最も多いのは石油製品で和歌山下津港から移入。 移入量:79万トン	砂利・砂が最も多く、次いで再利用資材、化学薬品。 移入量:204万トン
(6)日高港との関係	日高港は当港から砂利・砂、原木を移入。特に、砂利・砂は最多。	日高港は当港から原木を移入。	日高港は当港から原木を移入。徳島小松島港と並んで移入量は最多。	日高港は尾道糸崎港と並んで原木の移入量が最も多い。	日高港から木材・チップを移出している。

[注] 数値データは平成16年港湾調査より



## 第2章 問題点の抽出

### 2-1 前提条件

---

#### 1. 概況

現在の日高港の利用は、木材、砂利・砂、石材、石油類などであり、建設関連の資材が多く、品目数も限定されている。これらの貨物を取り扱っている事業所では、近年の建設関連工事量の減少等により、港湾貨物取り扱い量が大幅な落ち込みとなっていた。

平成 16 年に大型岸壁の完成と景気動向の回復により港湾貨物取り扱い量の増加の兆しが見えてきているが、過去において中心的品目であった外材の移入量は伸び悩んでいる実態である。

#### 2. 日高港のメリット・ポテンシャルの整理

問題点抽出にあたって、日高港のメリット・ポテンシャルを整理すると以下のようなものである。

【日高港のメリット・ポテンシャル】

メリット	ポテンシャル
1.大型岸壁と耐震強化岸壁の供用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ -12m 岸壁（暫定-10m 供用）、-7.5m 耐震強化岸壁が完成、物流拠点としての地域経済振興の核となり、背後圏荷主企業にとってトータル輸送コストの削減につながる可能性がある。</li> <li>・ 木材など大型貨物船の入港が可能である。</li> <li>・ 観光クルーズ船寄港の誘致が取り組まれており、広域観光ルートの海の玄関口としての可能性、観光集客の増加が期待される。</li> <li>・ 大規模災害時の緊急物資輸送港となりうる。</li> </ul>
2. 港湾直背後と近隣の企業用地の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港湾利用産業の集積の可能性や、交通利便性を活かした企業誘致の促進が検討される。</li> <li>・ 地域産業の事業拡張用地、移転先としての利用が考えられる。</li> <li>・ 取り扱い量の多い、セメント・砂利等の関連産業における骨材センター、セメント二次製品センターなど既往取り扱い貨物の高度化等が検討される。</li> <li>・ リサイクル産業や自動車・電化製品等の再生輸出等の資源循環・活用型の新たな産業の誘致が検討される。</li> </ul>
3. 関西経済圏のフリンジに位置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関西経済を市場とした貨物、しかも阪神港利用の補完的物流貨物の利用が検討される。具体的には、産業廃棄物などの需要の高まっている品目があげられる。</li> <li>・ 航行船舶が輻輳する大阪湾の入口付近に位置し、太平洋航路に接近しており、航行時間の短縮が可能である。</li> </ul>
4. 高速自動車道に 10 分でアクセス可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港湾貨物最終需要地への輸送時間短縮（背後圏の拡大）が可能である。</li> <li>・ 観光客の行動圏の拡大による集客機能の向上が期待される。</li> </ul>
5. 広域的な背後圏（御坊、田辺圏域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 背後圏の都市型消費物質の物流拠点としての活用が期待される。</li> </ul>
6. 製材業や食品加工業など特色ある地場産業の存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製材業、梅干など特色のある地方産業があり、これらの原材料製品の海上輸送が可能である。</li> </ul>
7. 下津港など周辺港の機能の補完、連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日高港の貨物取り扱いの主要品目の移入先を見ると、原木・原油・重油は、近畿圏外の輸入港との関係が中心となっており、周辺港との関係性は薄い状況にある。</li> <li>・ それぞれの背後圏における小口の物流の集約化の機能分担や連携などが考えられる。ただし、コンテナへの対応が課題となる。</li> </ul>

## 2-2 問題点の抽出

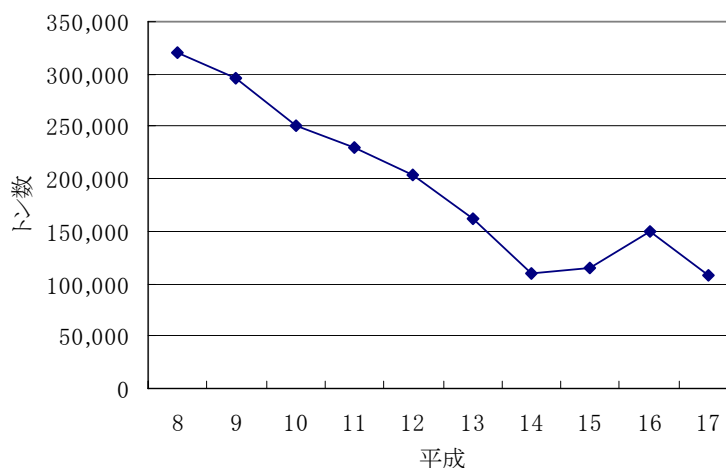
### 1. 現在の取り扱い品目から見た問題点

#### (1) 外材の共同輸入

日高港の原木の移入量（主に外材の二次輸送）は、平成8年には32万トンあったが、その後減少を続け平成14年は11万トンまで落ち込んだが、大型岸壁の完成もあり平成16年には15万トンまで回復した。しかし、平成17年には、再び減少に転じている。

現在の外国→輸入港（尾道糸崎港、徳山小松島港など）→日高港の輸送形態から、外国から直接日高港に輸入することにより、輸送コストの削減が図れる可能性があるが、このためには、現在既に各製材業者が行っている共同移入等の取引関係の調整、既存工場との輸送コストの低減、ロットとして1回当たり8千から1万トンの輸入量の確保等が必要である。

【日高港の原木移入量の推移】



(単位:トン)

	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
移入	319,610	295,250	251,440	230,350	203,871	162,471	108,849	114,667	149,487	107,197

#### (2) 林産品

日高港では、平成10年までは9~10万トンの原木を移出していた実績があるが、価格等の面から需要が縮減している実態にある。

しかし、中国等の東アジア諸国・諸都市の経済成長と環境制約の拡大、健康志向の高まりなどより、世界的な木材需要の高まりにあわせて、わが国の木材資源もその競争力の回復が期待されている。

背後圏の豊かな森林資源—紀州材—について、原木や加工品として、国内はもとより東アジア諸国・諸都市の市場への供給の拡大を検討していく必要がある。

### (3) セメント、砂利・砂

砂利・砂の平成 17 年の取り扱い量は約 18 万トンとなっている。

由良港、和歌山下津港や新宮港には、各メーカーがセメントサイロを持ち、メーカーが手配するセメント専用船で海上輸送を行い、そこから御坊市内にある生コン事業者までローリー車で輸送している。また、砂利・砂のうち地元産以外の瀬戸内海沿岸産のものは、船舶輸送で運ばれ、日高港、由良港を利用している。紀伊水道の日ノ御崎を越えて南下すると海上運賃が上がるため由良港を利用する事業者もいる（平成 15 年日高港振興ビジョン調査報告書より）。

これらの品目の物流拡大のためには、基本的にはセメントサイロのある最寄りの港に直接輸送して、横持ちの距離を短縮することが望ましいため、セメントステーション（SS）の立地が検討される。その場合、最終ユーザーの集積があること、すなわち需要地に近い場所であることが必須条件となる。SS の採算ラインは、1 SS 当たりのセメントの取り扱いが年間 10 万トン程度と言われている。

また、セメント専用船 1 隻当たりのコストを削減するために、各メーカーはセメント専用船の大型化を進めており、1 寄港当たりの平均荷揚げ量で 5 千トンから 10 千トン程度にしている。

さらに、SS 立地のための条件としては 1 万トン級のセメント専用船の入港が可能な港湾、すなわち 10m 程度の水深を持つ港湾が必要となる。

現在の日高港には水深 12m（現在は暫定で 10m）の岸壁を整備しており、ハード面では十分にこの条件をクリアできるが、建設需要が今後縮退すると見込まれるなかで、日高港での SS の立地を、和歌山下津港に対する優位性をもって進めることは難しいと考えられる。

### (4) 石材

石材のうち墓石についてみると、中国からほとんど完成品の形態で、神戸港や名古屋港経由でコンテナで輸入されている。これまで文里港で扱っていたが税関が廃止されたために利用港を神戸港等に変えている。

日高港において、税関の設置やコンテナへの対応を図ることにより、墓石のほか、建設用石材（大理石等）の取り扱いの可能性も広がると考えられ、市場の確認のもとに取り組む必要がある。

## (5) 農産品、同加工品

梅干メーカーのヒアリングによると中国広東省で稼働している直営工場から、大阪港に荷揚げして和歌山市内の倉庫までコンテナのまま運搬し、そこからトラックで工場へ搬入している企業もある。

近年、全国でりんご、柿、米など高付加価値の農産物が海外に輸出されるケースが散見され好評である。背後圏の農産物で、海外に輸出する可能性のある地域資源を見直すことが必要である。

## (6) 小口輸送品目

日高港の背後圏（御坊都市圏、田辺都市圏）の主要企業に対するヒアリング結果（和歌山港湾工事事務所、平成14年度）によれば、プラスチック製品等において既に6000トン規模の輸出を行っている企業があるほかは、数百トン未満の輸出等の規模にとどまる企業がほとんどである。しかし同時に、日高港の近接性を評価し利用意向が示されているとともに、中国市場への進出に向けて具体的な商談がある企業も存在している。

地域産業振興の観点からも、こうした個々の企業活動・ニーズに対応した、小規模な物流について、海外市場への進出などニーズ開拓の段階からの支援を検討していくことが必要と考えられる。また、こうした小口貨物について、海外港との直接の貨物取り扱いのほか、阪神港との内航コンテナ航路の開設等によるモーダルシフトによって、輸送コストの削減、CO2など環境対策にも貢献していくことも考えられる。

ただしこのような小口の物流ニーズを対象としていくためには、貨物の集散と輸送の効率化が前提である。

なお、現在日高港を利用している船舶の会社を対象として、「空船」の活用の可能性について今回実施したヒアリングによれば、積荷のニーズがないこと、砂・砂利の場合には運送品目が限定されることなどにより、実績・ニーズも限られている状況である。

## 2. 企業誘致に関する問題点

日高港の背後圏の産業活動規模での物流拡大には限界があり、地域経済の活性化の観点からも、港湾直背後と近隣の企業用地の存在をふまえて、高速自動車道へのアクセスを活かして、積極的な企業誘致に取り組む必要がある。

## 3. 観光機能等に関する問題点

平成16年11月、平成19年1月には、観光クルーズ船の寄港誘致を実現しているが、港湾のみでの活性化、観光クルーズ船の寄港の定期化は難しく、広域的な魅力化を検討していくことが必要である。

#### 4. 問題点のまとめ

項目	問題点
<b>1. 現在の取り扱い品目</b>	
(1) 製材業の共同輸入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の外国→輸入港（尾道糸崎港、徳山小松島港など）→日高港の輸送形態から、外国から直接日高港に輸入することにより、輸送コストの削減が図れる可能性があるが、このためには、現在既に各製材業者が行っている共同移入等の取引関係の調整、既存工場との輸送コストの低減等の制約がある。</li> </ul>
(2) 林産品の輸出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・背後圏の豊かな森林資源－紀州材－について、原木や加工品として、国内はもとより東アジア諸国・諸都市の市場への供給の拡大を検討していく必要がある。</li> </ul>
(3) 砂・砂利、セメントの輸移入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年の取り扱い量は約18万トンとなっている。建設需要が今後縮退すると見込まれる状況では、和歌山下津港に対する優位性をもって進めることは難しいと考えられる。</li> </ul>
(4) 石材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日高港において、税関の設置やコンテナへの対応を図ることにより、建設用石材（大理石等）の取り扱いの可能性も広がると考えられるが、市場の確認のもとに取り組む必要がある。</li> </ul>
(5) 農産品、同加工品の輸出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅干など地場産品の輸出と原料の輸入の検討が必要である。</li> <li>・品目・量が限定されている。</li> </ul>
(6) 小口輸送品目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・背後圏の企業の物流ニーズは数百トン未満の小口が多く、阪神港や和歌山下津港を利用して海外へ輸出を行っている企業も存在する。対象としていくためには、貨物の集散と輸送の効率化が前提である。</li> <li>・なお「空船」の活用に関する船舶サイドの実績・ニーズは現在のところ乏しい。</li> </ul>
<b>2. 企業誘致等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日高港の背後圏の産業活動規模での物流拡大には限界があり、地域経済の活性化の観点からも、港湾直背後と近隣の企業用地の存在をふまえた積極的な企業誘致が必要である。</li> </ul>
<b>3. 観光機能等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港湾のみでの活性化、観光クルーズ船の寄港の定期化は難しく、広域的な魅力化を検討していくことが必要である。</li> </ul>

# 第3章 将来の物流の可能性検討

## 3-1 日高港における将来の取り扱い貨物の検討

### 1. 品目別の検討

#### (1) 木材、石材の輸出入可能性の有無

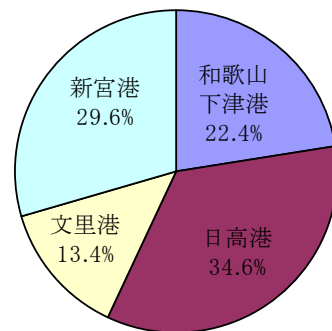
【県内港の外材原木需要量比率 (H15年)】

##### ① 外材原木の輸入

日高港は図1のとおり和歌山県内最大の外材原木需要（輸入量+移入量-移出量）を示している。米ツガの柱材を主品目にしていた和歌山下津港及び田辺文里港の背後圏製材産業が急速に衰退していったのに対し、建築用材から土木用材まで幅広い多品種少量生産を行ってきたことで生き残りに成功、相対的に比率を向上させて来たためである。

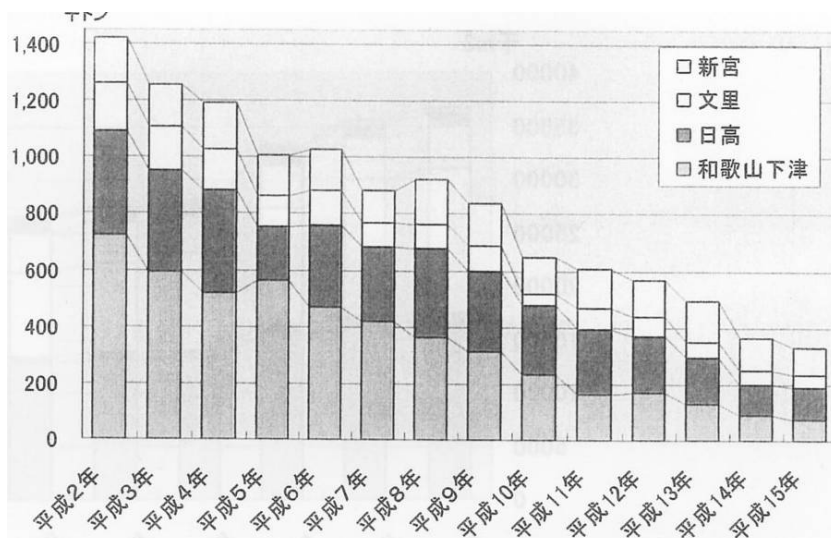
日高港では約115千トンの原木需要があり、これは本船就航が可能になる量である。

しかし、需要量の推移は図2のとおり深刻で、平成2年からの14年間で和歌山下津港で1/10に、日高港で1/3、全県では1/4に落ち込んでいる。



【県内港の外材原木需要量の推移】

(千トン)



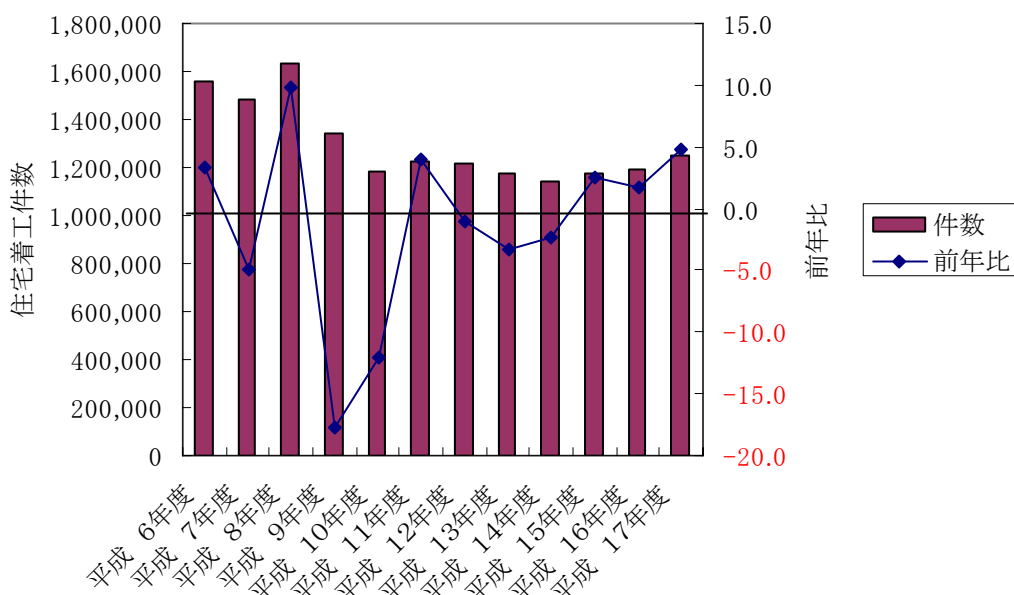
今後の国内における木材の需要についてみると、建築様式の変化に加えて、人口減少の時代に突入し、新規住宅着工件数の減少が見込まれる。

全国の新設住宅着工総件数をみると、平成11年から減少したが、平成15年から持ち直し増加傾向にある。分譲住宅の中で一戸建ては平成15年に10%を超える増加であったが平成17年には減少傾向にあり、一方マンションの着工件数は平成17年には10数%の伸びとなり、貸家住宅とともに住宅着工件数の伸びに貢献している。

中期的に見た場合、住宅着工件数は世帯増加数と建替え需要の動向によって決定され、なかでも世帯数の動向が着工件数の趨勢を説明すると言われている。国立保障人口問題研究所の中期推計では、世帯数の伸びは今後鈍化し、2015年には減少に転ずる見込みである。従って、着工件数も大幅な伸びは見込めず、世帯数は中期的には着工件数の下押し要因として作用する見込みである。

### <参考>住宅着工件数の推移(全国)

【全国の住宅着工件数の推移】



	総計		持家				貸家				給与住宅		分譲住宅						
	戸数	前年比	戸数	前年比	戸数	前年比	戸数	前年比	戸数	前年比	戸数	前年比	戸数	前年比	分譲に占める割合	前年比			
平成6年度	1,560,620	3.4	146,616	8.8	580,927	8.2	374,503	13.5	574,151	-11.9	27,911	-10.4	377,631	30.1	226,820	43.6	60.1	144,316	13.7
平成7年度	1,484,652	-4.9	138,139	-5.8	550,544	-5.2	304,737	-18.6	563,652	-1.8	25,790	-7.6	344,666	-8.7	198,372	-12.5	57.6	139,945	-3.0
平成8年度	1,630,378	9.8	157,014	13.7	636,306	15.6	371,138	21.8	616,186	9.3	25,847	0.2	352,039	2.1	199,500	0.6	56.7	147,346	5.3
平成9年度	1,341,347	-17.7	123,751	-21.2	451,091	-29.1	218,575	-41.1	515,838	-16.3	23,725	-8.2	350,693	-0.4	210,799	5.7	60.1	135,742	-7.9
平成10年度	1,179,536	-12.1	110,978	-10.3	438,137	-2.9	224,385	2.7	443,907	-13.9	15,647	-34.0	281,845	-19.6	166,010	-21.2	58.9	112,506	-17.1
平成11年度	1,226,207	4.0	119,562	7.7	475,632	8.6	269,133	19.9	426,020	-4.0	12,445	-20.5	312,110	10.7	192,060	15.7	61.5	117,576	4.5
平成12年度	1,213,157	-1.1	117,523	-1.7	437,789	-8.0	192,277	-28.6	418,200	-1.8	10,846	-12.8	346,322	11.0	218,311	13.7	63.0	125,694	6.9
平成13年度	1,173,170	-3.3	108,800	-7.4	377,066	-13.9	107,034	-44.3	442,250	5.8	9,936	-8.4	343,918	-0.7	222,858	2.1	64.8	119,009	-5.3
平成14年度	1,145,553	-2.4	103,438	-4.9	365,507	-3.1	46,380	-56.7	454,505	2.8	9,539	-4.0	316,002	-8.1	198,432	-11.0	62.8	115,584	-2.9
平成15年度	1,173,649	2.5	104,945	1.5	373,015	2.1	31,761	-31.5	458,708	0.9	8,101	-15.1	333,825	5.6	202,376	2.0	60.6	129,327	11.9
平成16年度	1,193,038	1.7	105,531	0.6	367,233	-1.6	15,166	-52.2	467,348	1.9	9,413	16.2	349,044	4.6	207,442	2.5	59.4	139,430	7.8
平成17年度	1,249,366	4.7	106,651	1.1	352,577	-4.0	9,997	-34.1	517,999	10.8	8,515	-9.5	370,275	6.1	230,674	11.2	62.3	137,815	-1.2

〔出所〕住宅着工統計(平成18年)国土交通省総合政策局情報管理部建設調査統計課

一方、本船就航には、陸揚げ港を決めている多数の間屋・商社へのポートセールスが必要になるが、日高港背後圏の製材産業は、幅広い製品種に対応すべく、米マツ材や米ツガ材を中心に様々な樹種が挽かれており、これも本船就航の障害の一つとなると考えられる。

以上のことから、原木輸入の早急な拡大の可能性は低いと考えられる。



## ② 外材製材の輸入

大連からの製材品は既に日本へも輸入されている。和歌山県近隣でも取引している企業がある。しかしすべての製材品はコンテナ輸送の形態をとるため、コンテナ航路が開設されていないこと、設備がコンテナに未対応であること等から、製材の日高港への輸入可能性は、現段階では低いと考えられる。

## ③ 石材の輸入

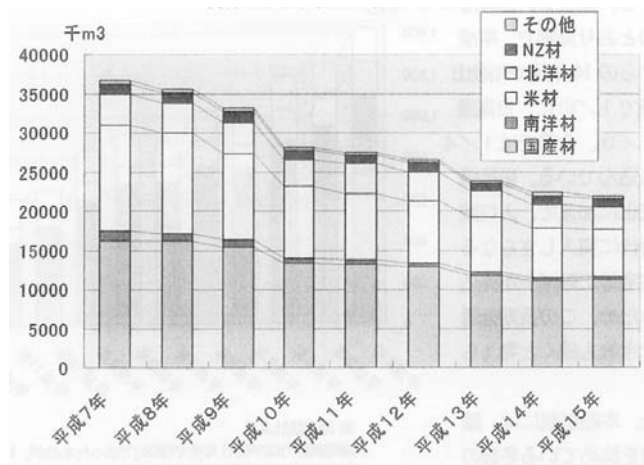
近年、中国から4～5千トンの石材が和歌山下津港へ輸入された実績がある。また、大阪等近隣港から陸路で入ってくる石材も多いと考えられることから、和歌山全県ではある程度の需要があると推測される。しかし、大連に入ってくる石材は原木同様、産地で一次加工されコンテナ貨物として陸路輸送されてくるもので、当然海路もコンテナ貨物となるため、日高港への輸入可能性は現段階では低いと考えられる。むしろ、石材の産地である福建省からの輸入可能性について検討すべきと考えられる。

なお、多くの貨物がコンテナ化している現在、日高港においてガントリークレーンなど荷役機械設備を準備する必要があるが、現行設備のままで、工夫を加えることにより、トラッククレーンを利用するなどコンテナ輸送に対しある程度の効率化を図ることは可能である。

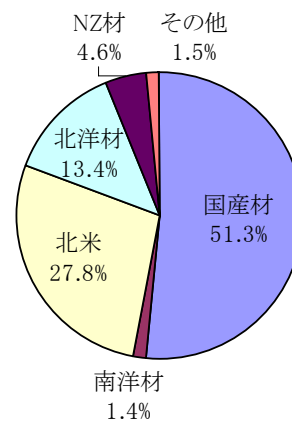
#### ④ 紀州材の輸出

前述のとおり、製材産業は長期低落傾向にあるが、これを素材の供給面で見えた場合、外材は、中国特需、産地の環境問題等により安定供給に陰りが見え始めており、国産材が見直されつつある。現に日本の木材需要の過半数は国産材が占めるに至っている。環境面から産業としての林業が見直されつつあることも追い風になっている。

【製材用素材供給量の推移（全国）】



【製材用素材供給率（全国、H15年）】



価格面でも原油と傭船料の高騰により外材の輸送コストが増加しており、国産材は徐々にではあるが競争力を復活させつつあり、国内需要は横ばいから増加へと変化しつつある。国産材復権の兆しといえる。建築構造材の主流となりつつある集成材は、国産材は間伐材はもとより短尺材や曲がり材の活用も可能になった。中国の安価な労働力を用いることで、一層の価格競争力を備えることが可能である。

一方、中国市場における住宅関連の木材需要については、構造材としてではなく内装材・家具の原材料としての需要が中心であり、またスギ材のように白く柔らかい木材は敬遠される傾向があるとされている。しかし、富裕層のマンション・別荘には和室を設けることがステイタスとされてきているなど、スギ・ヒノキの素材の良さをアピールすることにより十分に中国における市場の開拓は可能と考えられる。

なお我が国から中国へ原木・製材等の輸出への取り組みも既に行われており（次節 3-2 参照）、和歌山県でも平成 14 年には約 5,100 トン、翌 15 年には、7,400 トンの国産材が下津港から中国等へ輸出されている。

以上の点から、原木の出荷体制の整備や、中国での防疫対策、加工体制の整備、販売ルートの実立など、クリアしなければならない課題は多いが、紀州材の中国への輸出は十分な可能性を秘めていると考えられる。

## 2. 日高港における将来の取り扱い貨物の抽出

前節までの検討を踏まえて、日高港における将来の取り扱い貨物として、以下の考え方のもとに紀州材を抽出して、検討を進める。

### (1) 取り扱い貨物とする内容の設定

紀州材の原木又は製材を輸出し、中国において集成材や家具・木製品等へ加工した上で、日本国内への逆輸入や中国市場での販売、欧米市場への販売等を図ることを検討する。

これは、後述するように、中国が世界の木材加工基地として機能していること、さらに中国国内等における木材生産の制約の高まりと一方での森林資源の制約の拡大等をふまえて、集成材や集成材を用いた家具・住宅内装材の原材料としての需要拡大を図ろうとするものである。

その際、集成材・木製品等の最終市場をどこに想定するのかにより、コスト・課税・手続き等が大きく異なってくる。次節において、これらの点に関する中国市場の実情把握等を行う。

### (2) その他の可能性

経済産業省が推進している JAPAN ブランド育成支援事業(※)に平成 17 年に採択された「置き和室」は、御坊商工会議所において、新たな木材関連地場産業活性化の「切り札」として位置づけ、地場ブランドとして支援・育成することに取り組んでいる商品である。

既存建築物（住宅）に容易に設置できる無垢紀州材使用の組立式「置き和室」を、地場に集積する木材加工・畳・家具・建具・竹加工業者の連携のもとに開発し、畳・家具・インテリア・装飾品等関連製品を含めトータル・ブランド化を推進するものとしている。

「置き和室」の販売拡大に際して、完成品や部品の輸出、海外加工の場合の原材料としての紀州材の輸出と完成品の(逆)輸入が、取り扱い貨物としての対象となる。

なお、国内市場はもとより、海外市場における販売拡大に向けては、置き和室はもちろん、素材としての紀州材の良さを海外市場の人々に理解してもらうための PR 展開が必要となる。

また、加工を海外で行う場合は、デザインの盗用や模倣の防止など、ブランド化や市場拡大に対する障害に十分対処していくことが必要である。

※ JAPAN ブランド育成支援事業は、地域の特性を活かした製品の魅力・価値を更に高め、全国さらには海外のマーケットにおいても通用する高い評価（ブランド力）を確立すべく、商工会・商工会議所等が地域の企業等をコーディネートして行う、マーケットリサーチ、専門家の招聘、コンセプトメイキング、新商品開発・評価、デザイン開発・評価、展示会参加（海外展示会については、ジェトロと連携）等の取り組みを行うプロジェクトについて、総合的に支援を行うもの。

### 3-2 将来の取り扱い貨物に関する中国市場・港湾等の状況(木材・家具等加工品)

#### 1. 中国の木材市場の概況

中国の木材市場は、2008年の北京オリンピックや2010年の上海万博開催などを控えた住宅建設と都市化関連の事業投資が活発に行われており、巨大な市場として期待されている。特に中国国内でも所得の伸びの著しい沿岸部では高級志向が強く、高品質住宅に対する需要が増大しており、木造住宅の需要が高まっている。また、集合住宅における木材需要に目を向けると、中国のマンションはスケルトン方式での引き渡しが行われていたが、現在では内装の高水準化が進められており、さらに内装済みの住宅販売を全力で推進しているため、内装材料としての木材の利用が拡大傾向にある。特に床材としてフローリングの需要が旺盛で、高い成長を続けている。

中国国内の住宅需要の今後の見通しについては、「中国建築装飾産業第11次五カ年発展規画(計画)綱要」(※)では、2006～2010年における中国の新設住宅床面積は80億㎡、100㎡/戸換算で8,000万戸、さらに2020年までには2億戸に及ぶ推測値をあげている。

※ 中国の中央政府が制定した「国民経済と社会発展第11次五カ年(2006-2010年)発展規画(計画)」に基づき、各地方・各業界により策定された計画のひとつで、中国建築装飾協会により2006年7月に公表された。((財)日本木材総合情報センター 木材販路開拓のための海外市場情報 2006年11月による)

一方、中国は世界の木材加工工場として、欧米、中東、日本向けの家具製品や木製品の輸出が増加しており(下図参照)、その原材料として、原木等の輸入も急速に拡大している。

建築需要と歩調をあわせ、中国内消費者にオリジナル家具への需要が高まると同時に、中国からの家具輸出量も世界一を誇り(1988年:20億ドル→2005年には約70億ドル)、家具製造向け等の木材の需要も期待される。

#### 2. 中国国内の木材需要の動向

中国の木材消費量は、上記のような旺盛な需要に支えられ急増傾向にあるが、その反面、中国国内における広範囲な森林伐採により、近年洪水などの自然災害が頻発したため、環境問題を重視した森林伐採削減政策がとられている。これにより、国産材の供給量が減少したことから自給率が低下しており、木材の輸入大国となりつつある。

中国の国家林業局から2006年5月公表・施行された「林業発展“十五”並びに中長期規画(計画)」において、林業発展の基本原則のひとつとして、「森林資源の保全を優先し、積極的な植林と科学的な経営を推進すること」とされている。

中国国内の旺盛な木材需要に対して森林資源の制約が拡大することにより、木材の輸入は今後も拡大すると考えられる。

なお、中国同様経済成長著しいインド等の木材需要も増加しており、世界市場から見ても木材供給は不足傾向が明らかになっている。この傾向は化石エネルギー市場と同じく、中長期的に継続すると見られている。

### 3. 日本の木材・木製品の輸出入状況から見た位置づけ

わが国の木材の輸出についてみると、2006年1月～12月の輸出は原木が約3万m<sup>3</sup> 製材が約1.7万m<sup>3</sup>で、うち中国は各86.8%、71.9%を占める。

【日本の木材輸出状況（全国、2006年）】

区分	原 木		製 材	
	数量 m <sup>3</sup>	価額 千円	数量 m <sup>3</sup>	価額 千円
総 計	30,388	427,302	17,099	1,234,546
うち中国	26,391	317,526	12,154	486,793
中国の割合	86.8%	74.3%	71.1%	39.4%

資料：財務省 貿易統計より加工  
※ 原木は輸出分類 統計品目の第44類のうち44.03、製材は44.07の計

一方、日本の木材輸入の状況は、次頁表にみるように、2005年では米材・北洋材を中心とする丸太が約1,065万m<sup>3</sup>、米材・欧州材を中心とする製材が約872万m<sup>3</sup>と多くを占めるが、特に丸太の輸入量は減少傾向にある。また、構造用集成材は2005年では約67万m<sup>3</sup>であり丸太や製材の各々10分の1未満であるが、増加傾向にあるとともに、輸入先の国別に見ると、中国産の集成材が急速にシェアを拡大している。

前章に示したように、我が国は、少子超高齢化社会への移行に伴い新規住宅着工件数の減少が見込まれ、これまでの丸太・製材を中心とした輸入量は縮小すると考えられるが、構造用集成材などへの需要の変化、内装材や家具等の最終需要の拡大等に対応した日本・中国間の木材貿易拡大が見込まれる。

【日本の木材輸入量の推移(丸太)】

(単位:1,000m3 前年比%)

年・月	合計		米材		北洋材		南洋材		NZ材		チリ材		アフリカ材		欧州材		その他	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
1997	20,407	95.6	5,756	81.8	6,137	113.2	5,386	95.0	1,983	92.9	183	125.7	662	99.7	155	76.3	146	235.2
1998	15,190	74.4	4,719	82.0	4,720	76.9	3,329	61.8	1,870	94.3	118	64.4	186	28.0	95	61.3	153	105.4
1999	16,551	109.0	4,799	101.7	6,061	128.4	3,449	103.6	1,609	86.1	108	91.5	206	111.1	17	18.1	301	196.6
2000	15,949	96.4	4,783	99.7	5,605	92.5	3,070	89.0	1,843	114.5	110	101.6	231	111.8	70	407.4	238	79.1
2001	13,914	87.2	4,194	87.7	5,292	94.4	2,111	68.8	1,469	89.5	130	118.6	238	103.0	87	124.5	213	89.4
2002	12,663	91.0	3,922	93.5	4,746	89.7	2,008	95.1	1,468	89.0	135	103.8	122	51.5	126	144.2	136	63.6
2003	12,639	99.8	3,830	97.6	5,105	107.6	1,768	88.0	1,481	100.9	155	114.5	121	98.7	58	46.3	121	89.6
2004	12,683	100.3	3,715	97.0	5,884	115.3	1,626	92.0	1,124	75.9	114	73.7	58	47.4	44	75.1	120	99.0
2005	10,654	84.0	3,451	92.9	4,689	79.7	1,415	87.0	922	82.0	106	93.2	12	21.2	36	83.4	22	18.4
2005 11	770	86.6	263	93.4	309	85.7	99	75.5	96	103.2	0	1.0	0	50.9	2	110.2	1	87.7
2005 12	711	85.9	298	124.1	244	68.1	100	84.2	43	47.5	11	1632.7	2	223.2	3	110.2	9	61.3
2006 1	882	80.3	271	74.3	417	101.5	116	61.4	71	65.2	0	1.9	1	237.9	4	83.6	1	113.0
2006 2	808	91.5	218	91.1	415	98.7	100	79.9	34	46.0	11	66.3	1	271.9	6	122.5	21	3123.7
2006 3	1,032	101.4	309	98.1	502	96.6	98	94.8	115	164.0	0	0.0	1	36.5	7	111.6	1	75.8
2006 4	923	89.1	312	115.2	493	100.7	87	65.1	25	22.5	1	5.8	0	35.1	4	70.8	1	9.6
2006 5	1,054	117.0	339	130.1	510	109.1	107	90.9	79	166.5	12	17768.1	1	89.6	5	87.1	0	101.9
2006 6	907	91.9	227	73.0	515	106.1	84	72.5	76	110.2	1	272.6	1	41.4	2	101.0	1	97.2
2006 7	891	99.3	333	113.9	391	105.7	105	87.3	59	61.2	1	4.6	0	46.2	1	1723.1	1	108.2
2006 8	841	93.6	258	86.7	385	104.3	137	105.4	58	67.5	0	0.5	1	79.0	1	52.1	1	93.7
2006 9	863	127.3	260	103.0	362	123.0	127	151.1	86	186.4	25	-	2	266.0	1	-	0	41.8
2006 10	864	111.0	293	101.9	354	114.2	139	145.2	75	104.5	1	4.7	1	344.9	1	347.4	1	106.1
2006 11	744	96.6	227	86.3	319	103.2	145	146.7	46	47.9	0	0.0	0	108.1	2	92.7	6	822.7
対前月比	86.1	-	77.4	-	90.2	-	104.0	-	61.2	-	0.0	-	38.1	-	230.5	-	1010.1	-
対前年比	96.6	-	86.3	-	103.2	-	146.7	-	47.9	-	0.0	-	108.1	-	92.7	-	822.7	-
05.1~当月	9,943	-	3,153	-	4,446	-	1,315	-	878	-	95	-	11	-	33	-	13	-
06.1~当月	9,808	98.6	3,046	96.6	4,663	104.9	1,246	94.8	726	82.6	52	54.5	10	92.8	34	101.3	32	254.2

【日本の木材輸入量の推移(製材)】

(単位:1,000m3 前年比%)

年・月	合計		米材		北洋材		南洋材		NZ材		チリ材		欧州材		その他	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
1997	12,590	102.5	7,263	87.8	524	128.7	1,367	102.8	338	118.2	616	142.2	2,105	170.5	378	116.8
1998	7,765	61.7	4,630	63.8	310	59.3	838	61.3	247	73.1	385	62.4	1,123	53.3	232	61.2
1999	9,740	125.4	5,376	116.1	459	147.9	1,020	121.7	270	109.4	439	114.0	1,901	169.3	274	118.3
2000	10,266	105.4	5,274	98.1	559	121.7	1,051	103.1	278	103.0	499	113.9	2,240	117.8	364	132.9
2001	9,306	90.7	4,445	84.3	602	107.8	953	90.6	246	88.3	444	88.9	2,316	103.4	300	82.4
2002	8,904	95.7	3,890	87.5	694	115.3	887	93.1	221	90.0	393	88.5	2,513	108.5	306	101.9
2003	9,203	103.4	3,819	98.2	828	119.3	831	93.7	200	90.3	456	116.0	2,760	109.8	310	101.4
2004	9,478	103.0	3,982	104.3	1,005	121.4	617	74.3	181	90.7	458	100.5	3,016	109.3	220	70.9
2005	8,721	92.0	3,310	83.1	1,082	107.6	564	91.3	174	96.0	428	93.4	2,934	97.3	231	105.2
2005 11	764	96.2	301	102.2	80	92.6	46	82.4	14	60.8	31	76.8	270	98.9	22	104.0
2005 12	655	93.0	239	89.1	63	79.3	43	101.1	14	100.4	22	51.8	254	107.4	19	94.0
2006 1	823	97.5	342	95.6	93	119.0	51	96.2	13	89.1	21	40.6	280	105.9	22	95.5
2006 2	627	98.7	240	96.1	72	94.0	32	72.3	11	208.2	33	105.0	225	105.7	14	91.2
2006 3	758	106.4	341	124.9	102	91.3	39	111.8	7	39.3	3	8.1	251	109.9	16	95.3
2006 4	742	93.0	286	98.9	87	77.6	52	99.3	22	88.6	48	75.5	229	97.0	18	89.8
2006 5	806	108.3	314	118.1	104	92.6	46	94.3	10	82.2	30	92.4	283	111.3	19	104.8
2006 6	756	102.3	256	94.7	118	120.4	42	95.7	27	222.1	26	79.5	266	101.3	20	108.7
2006 7	729	106.0	266	121.1	79	79.7	45	99.8	7	47.7	37	93.8	277	112.9	18	73.8
2006 8	729	103.6	277	121.4	82	103.0	47	77.7	14	90.6	18	39.1	273	106.9	18	97.4
2006 9	659	97.5	259	88.9	70	81.1	42	94.8	17	128.7	50	226.5	205	101.7	16	90.7
2006 10	777	102.2	316	97.9	74	87.8	44	91.6	19	116.8	36	163.5	272	109.3	16	89.0
2006 11	703	92.1	262	87.1	81	101.3	41	89.5	13	91.3	24	76.8	265	98.3	17	77.6
対前月比	90.5	-	82.9	-	109.3	-	93.8	-	69.5	-	65.5	-	97.5	-	107.5	-
対前年比	92.1	-	87.1	-	101.3	-	89.5	-	91.3	-	76.8	-	98.3	-	77.6	-
05.1~当月	8,066	-	3,070	-	1,018	-	520	-	160	-	405	-	2,679	-	212	-
06.1~当月	8,110	100.5	3,161	102.9	963	94.5	481	92.3	160	99.7	327	80.6	2,826	105.5	194	91.4

【日本の構造用集成材の輸入量の推移】

(単位:m3)

	総数	オーストリア	フィンランド	スウェーデン	ドイツ	中国	ロシア	カナダ	アメリカ	ニュージーランド	ブラジル	その他
1996	231,405	613	14,775	33,394	10,720	3,517		27,951	119,365	12,048	1,028	7,994
1997	269,733	6,092	16,041	42,649	39,136	4,794		39,930	91,254	7,325	2,035	20,477
1998	148,032	17,927	12,737	19,640	10,062	3,560	23,630	17,424	29,516	7,789	492	5,255
1999	271,264	50,043	33,151	39,473	31,020	6,944	26,280	24,535	42,392	11,417	226	5,783
2000	444,591	86,305	65,125	64,692	66,822	16,008	27,311	35,163	40,172	16,908	617	25,468
2001	498,339	84,082	83,374	72,056	93,734	24,600	26,213	40,476	30,305	18,958	550	23,991
2002	516,062	128,719	111,368	80,852	67,704	23,609	31,218	20,697	19,841	16,079	711	15,264
2003	540,506	141,857	120,835	71,384	66,733	64,162	24,945	23,639	10,385	2,906	2,619	11,041
2004	610,809	155,609	135,134	70,868	55,861	128,172	23,388	26,197	5,376	6,910	2,232	1,062
2005	670,813	225,670	137,969	63,207	21,460	152,039	28,940	17,826	2,776	10,356	1,958	8,612
2005 11	56,416	18,439	11,978	6,995	1,275	11,882	2,265	1,101	263	50	256	1,912
2005 12	56,114	17,838	12,914	5,059	1,403	12,562	2,203	1,253	35	231	50	2,566
2006 1	63,923	23,108	12,320	4,610	1,750	13,148	3,414	1,292	82	322	204	3,673
2006 2	42,994	12,627	8,268	4,796	838	9,377	2,201	1,052	6	257	52	3,520
2006 3	64,122	19,648	16,212	5,984	1,478	11,290	3,400	1,230	71	471	156	4,182
2006 4	64,165	17,313	14,666	4,198	1,864	15,410	4,058	1,389	108	843	255	4,061
2006 5	74,370	25,902	17,703	5,109	632	14,776	2,231	1,323	75	342	152	6,125
2006 6	70,463	19,512	16,485	6,699	602	17,374	2,526	1,501	5	273	152	5,334
2006 7	77,235	20,896	22,876	5,706	1,374	16,304	2,011	1,210	77	512	149	6,120
2006 8	79,955	25,289	20,382	4,925	754	16,197	4,200	1,374	35	1,005	192	5,602
2006 9	58,346	18,757	12,822	2,244	972	14,413	3,181	728	105	317	152	4,655
2006 10	71,526	23,576	17,092	5,167	1,371	15,297	1,184	1,035	139	891	152	5,622

## 4. 2005年度の中国木材貿易概況

### (1) 木材輸出入の概要

中国の木材関係の輸出入は年々増加傾向にあるが、特に輸出の額・伸びが目覚しく、2005年度の中国→海外への輸出額は101.2億米ドルで輸入額の1.9倍となっている。

中国の輸入は原料が主で原木・鋸材の輸入金額は47.5億米ドル、輸入の88%を占める。中国の輸出は製品が主体で97%を占める。すなわち、中国は世界の木材加工基地であることを意味する。輸出入総額、品目の概要は以下のとおりである。

- ・輸出入総額：156.1億ドル(前年比24.6%増)
  - 輸入 54.9億ドル(前年比9.3%増)
  - 輸出 101.2億ドル(前年比37.6%増)
- ・品目：輸入 原木、鋸材、人造板
- ：輸出 木製家具、木目板、木製ドア等(紙・紙パルプを含まない)

### (2) 品目別輸入状況

#### ① 原木輸入

2005年は、2,936.8万 $m^3$ (前年比11.9%増)となっている。うち、針葉樹が1,827万 $m^3$ (前年比14.5%増)、広葉樹が1,109.8万 $m^3$ (前年比7.9%増)となっている。広葉樹の内訳は、熱帯広葉樹が743.3万 $m^3$ (前年比0.9%増)、非熱帯広葉樹が366.5万 $m^3$ (前年比25.7%増)である。

原木輸入先国(2005年)は以下のとおりである。

第1位 ロシア : 2,004.3万 $m^3$ (前年比308万 $m^3$ 増、18.2%増)

※ 中国全体の68.2%(前年64.6%)

第2位 マレーシア : 186万 $m^3$

※ 2003年がピークで293.1万 $m^3$ で2年連続減少で2003年比で36.5%減となっている。主要原因はインドネシア産原木のマレーシア経由輸出が制限されたことによる。

第3位 パプアニューギニア : 183.5万 $m^3$ (前年比39.5%増)

第4位 ミャンマー : 63.8万 $m^3$ (前年比7.5%減, 2003年192万 $m^3$ )

※ 紫檀価格が53.4%上がり輸入量は大幅に減少している。

② 鋸材

2005年は、597.3万m<sup>3</sup>(前年比0.5%減)となっている。

内 針葉樹 188.3万m<sup>3</sup>(前年比10.8%増)

広葉樹 409万m<sup>3</sup>(前年比5%減)

・輸入国先

2005年	2004年	国	2004年 輸入量 (万m <sup>3</sup> )	2005年 輸入量 (万m <sup>3</sup> )	増減 (万m <sup>3</sup> )	増減 (%)
3	1	ロシア	79.9	105.7	25.8	32.3
4	2	米国	78.2	85.3	7.1	9.1
2	3	タイ	83.5	76.2	-7.3	-8.7
1	4	インドネシア	96.1	72.0	-24.1	-25.1
6	5	マレーシア	43.1	47.5	4.4	10.2
5	6	カナダ	43.9	35.0	-8.9	-20.3
8	7	ミャンマー	25.2	32.1	6.9	27.4
7	8	ブラジル	32.3	28.0	-4.3	-13.3

③ ベニア板

2005年は、58.4万m<sup>3</sup>(前年比25.2%減)となっている。

(3) 木製品の2005年輸出状況

先に述べたように、中国は世界の木材加工基地となっており、輸出の状況は以下のとおりである。

<第1位>家具

- ・輸出金額の68%は家具で69.8億米ドルを占め、世界一の家具輸出国となっている。中国が輸入する家具の76倍の額である。
- ・2004年末、米国が中国木製寝室家具をダンピングと判定し、このため、減少分をEUへ輸出している。この結果、フランスへの輸出額が前年比71.1%増、英国への輸出額が前年比63.4%増と急増している。

<第2位>ベニア板

- ・183億ドル(輸出17.9%)、554.3万m<sup>3</sup>(前年比29.2%増)となっている。中国の輸入は、58.4万m<sup>3</sup>で前年比25.1%減となっている。

<第3位>繊維板(強化フローリング板を含む)

- ・80.6万m<sup>3</sup>(前年比287.5%増)であり、うち内強化フローリング板の輸出は、34.5万m<sup>3</sup>(前年比543%増)となっている。一方、輸入は4.65万m<sup>3</sup>である。

<第4位>木製ドア

- ・3.5億ドル(前年比55.6%増)となっている。

(資料出所 中国木材流通協会 前会長 朱光前氏)